



Anchor

アンカー



INSIDE

巻頭言 2

グレート・リセット (偉大なる社会の再構築) 3

背教のオメガか?

「仲保者なしに生きることと完全主義」 11

「混乱から一致のために」

靈感の書からの引用 29

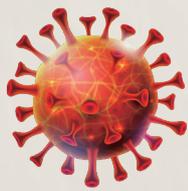
アンカー64号の訂正とお詫び 34



65号

2021年3月

Election



2020年は、実に激動の時であった。「新年」を迎えるたびに「激動」という言葉を使わざるを得ないほど、騒々しい世界であった。過去数年を振り返ってみると、「異例」づくしである。去年の二大ニュースというと、新型コロナウイルスがパンデミックになったことと、二つ目は米国史上かつてなかった混迷を極めた大統領選であろう。全世界は誰が米国大統領になるかを注目していた。なぜなら、聖書の預言から見ても、米国の動きに全世界が関わってくるからである。「超大国の民主主義の劣化は国際社会の不安定化に拍車をかけることになる」からだと沖縄タイムスは評した。米大統領選には、不正と詐欺があったことは明らかであった。敗北を認めたら、勝者に握手し祝福を述べるのがアメリカの大統領選の通例であった。しかし、トランプ大統領は、そうせず戦いはまだ終わっていないと言い続けている。これほど「分断と対立」の激しい大統領選は、過去になかったであろう。これも「異例」であった。大統領が2回弾劾訴追されたというのも異例。しかも、退任後に弾劾してトランプが二度と大統領選に出馬しないようにするという。

黒人であるオバマ氏が大統領になったことも「異例」。教皇ベネディクト16世が2013年2月28日をもって辞任したことを受け、アルゼンチン枢機卿ベルゴリオが、コンクラーベでローマ・カトリックの法王として選ばれた。イエズス会員が法王となったのは初の「異例」なことであった。思い出すが、空飛ぶ法王と言われたヨハネ・パウロ2世が、赤の国—共産国から法王に選ばれたのも「異例」なことであった。

そして、2020年11月3日、イエズス会のジョー・バイデンが米国大統領として当選したのも「異例」のことであった。勿論、カトリック信者であったジョン・F・ケネディーが大統領に選ばれたのも「異例」であった。

2019年末からコロナの流行が始まり、感染拡大を阻止する過程で、世界の体制を再編する事態となった、新型コロナウイルスの及ぼした影響は計り知れない。毎日、マスコミはその報道で絶え間ない。世界の政治、経済、医療関係、教育…あらゆる分野に多大な影響を及ぼしつつある。その解決のために今度はワクチン、開発競争、争奪戦！ 国会においては、このアジェンダと関係しない話し合いはない。



コロナ後の世界についていろいろな情報が飛び交っている。「グレート・リセット」という言葉が出てきた。「リセット」とは、「もう一度(re)セット(set)することに戻すこと。立て直し」という意味。世界を再構築するというのである。この危機の中で、一層変革が世界的に求められ、社会経済の仕組みを強制ストップして再スタートを切る「グレート・リセット」を起こす必要があるということであり、そしてそれは実際に起こりかけている。言い換えると「新世界秩序」のことである。

「終わりは非常に近い。真理を知っているわれわれは圧倒的な驚くべき事件としてまもなく世にのぞもうとしていることに対して備えなければならない。…」

海陸の災害、社会の不安状態、戦争の警報などが危機をはらんでいる。それらは最大の規模をもった事件が近づいていることを予告している。悪天使たちは勢力を結集して、陣地を固めている。彼らは最後の大危機のために強化されつつある。まもなくこの世界に大変化が起ころうとしているが最後の運動は急速なものとなるであろう」。

クリスチャンの奉仕 69,70

「マラナタ」の声を高く上げよう！ 「望みをいだく捕らわれ人よ」(ゼカリヤ12:9) 「主を待ち望め、強く、かつ雄々しくあれ。主を待ち望め」。詩 27:14

サンライズミニストリー代表 金城重博

グレート・リセット (偉大なる社会の再構築)

GREAT RESET



「グレート・リセット (The Great Reset) 世界再構築、世界の初期化・再設定」という新しい言葉が盛んに使われるようになりました。「グレート・リセット」とは、経済社会秩序の幅広い根本的な変革を意味しているようです。振り返ると、EU (ヨーロッパを中心に 27ヶ国が加盟する政治経済同盟) ができた歴史を思い出します。第二次大戦による国土の荒廃と、二超大国による世界の分断が進む中、欧州が一致団結することで再興をはかろうとの動きが活発化します。1950年、フランス政府は、ジャン・モネ (カトリック、ECの父と呼ばれている) の起草による「シューマン・プラン」を発表。それを基に、ECSC (欧州石炭鉄鋼共同体) が創設され、欧州共同体 (EC) に発展、そして1995年に **EU (ヨーロッパ連合)** となりました。EUは、経済統合に加え、政治統合の推進を目指すものです。

それは、今、世界が目指しているパターンのように



思えます。この分断・混乱した世界を統一して「新世界秩序」をつくるために、そのようなステップを踏むのでしょうか。何者かが世界経済を破綻させ統一することを陰謀しているのです。世界経済フォーラム (ダボス会議) もその方向を目指しているのでしょうか。



1ドル紙幣にある「Novus Ordo Seclorum - ノーヴァス・オード・セクロラム = 新世界秩序」が構築される時が来たようです。米国の紙幣なのにラテン語で書いてあるとは思えないことではないでしょうか。これは、黙示録 13章の預言、「先の獣 = ローマ法王教 = ラテン王国」と「小羊のような二つの角を持つ獣 = プロテスタント・アメリカ」、すなわち、バチカンと米国に関する預言が成就する時が遂に来たのです。

「われわれが生存している時代は厳粛にして重大である。神のみたまは徐々にではあるが、確実に地からとり去られつつある。神の恩恵をあざける者たちの上に災害や刑罰がくだっている。海陸の災害、社会の不安状態、戦争の警報などが危機をはらんでいる。それらは**最大の規模をもった事件**が近づいていることを予告している。悪天使たちは勢力を結集して、陣地を固めている。彼らは**最後の大危機**のために強化されつつある。まもなくこの世界に大変化が起ころうとしているが、**最後の運動は急速なものとなる**であろう」(9T11. クリスチャンの奉仕 70-71)。

超大国アメリカの大統領選の結果、資本主義から社会主義一全体主義へと転機しようとしているのでしょうか。「未来を明るくものにするためには、今行動を起こす必要がある」というメッセージを、新型コロナは加速させていると言われています。5月に開催予定のダボス会議のテーマはそのことのようにです。世界の転換期が来たことを示唆しています。

今年、米国大統領に就任したジョー・バイデン氏の特使であるジョン・ケリー氏は、「多くの人が想像する以上のスピードと強度で、それは実現するだろう」と述べました。確かに「統合」世界帝国に向かっています。それは全人類の奴隷化、自由のはく奪に進むでしょう。「経済のグローバリゼーション、政治の東西融合、世界の宗教統一、世界的規模の環境破壊、世界は今、好むと好まざるとにかかわらず、**確実に『世界は一つ』にむけて駆け足で進みつつある。**」(赤間剛) 黙示録の大預言の恐怖 p4

「グレート・リセット」と「新世界秩序」、「新型コロナウイルス」、「気候変動」、「カトリック」、「国連」、「世界経済」等々の関係をフランクリン・ファウラー M.D. (預言の研究所所長)の記事から学んでみましょう。

序章

リンカーン・ブルームフィールドは、彼の本「国連が効果的に管理する世界」(1962年)の中でこう述べている：

『世界政府』は、普遍的な世界的メンバーシップが必須であり、物理的な強制力を行使する能力があることを特徴とする超国家的な国際機関の設立によって実現するであろう。したがって、効果的に統制するには、超国家的組織の支配下にある政治的権力の優位が必要となる。¹

1990年、イエズス会のマラカイ・マーティンは次のように書いている：

「この競争は、誰が、今までの国家社会に存在した

ことのない、**初めての世界統一政府のシステムを確立するかというものである**。それは個人としての私たち一人一人と、共同体としての私たち全員を支配する権威と支配の二重の力を誰が保持し、振りかざすかということである。…その競争が始まってしまった以上、それを止めることはできない。…個人として、市民としての私たちの生活様式…国家のアイデンティティを示す象徴さえも。…永久に強力にそして根本的に変えられてしまうであろう。誰もその影響から免れることはできない。²

ジョージタウン大学(イエズス会)の教授、故キャロル・クイグリー氏は、「個人の自由と選択は、非常に狭い選択肢の中でコントロールされるであろう」と述べている。³

地球の最終世代に起こると予想されていた恐ろしい変化が、今、現れてきている！それらは、現在、「グレート・リセット」と呼ばれているメカニズムによって、世界の権力を中央集権化しようとする指導者たちの連合に関わっている！

この連合は、聖書的には「獣(一つの国家)」の「10の角」(黙示録17章)に象徴されており、この獣には娼婦(不誠実な教会)が乗っている。角は、権力を示す特殊な預言的象徴である。また、敵を撃退する「武器」でもある(申命記33:17)。「あなたの見た十の角は、十人の王のことであって…彼らは心を一つにしている。そして、自分たちの力と権威とを獣に与える」[文脈上、ローマの中の国家](黙示録17:12, 13)。その獣は全世界によってあがめられ、崇拜される(黙示録13:3,8)。これが預言である！

この世界的な野望の物語は、1891年、**ローマ教皇レオ13世**がレールム・ノヴァールム(Rerum Novarum)と呼ばれる回勅を発表したことから始まった。

彼の情熱は、**新しいグローバルな「経済秩序」**を実現することだった。彼は、「労働者の権利」に対する懸念を示す一連の社会的指示を多数発表した。それは人間の生来の貪欲さに訴えかけるものであった。「あなたには…の権利がある！」ということ。

¹ Lincoln Bloomfield, A World Effectively Controlled by the United Nations (Council of Foreign Relations, under a contract (No. SCC 2827) with the U.S. State Department, 1962), as quoted in Stuart, P. D.; Codeword Barb?n, Book One (Lux-Verbi Books, London - 2009), p. 156, 157-158, 166

² <https://clc-library-org-docs.angelfire.com/keys.html> (1990 - Malachi Martin, Keys of this Blood).

³ <http://intellectual-thoughts.com/Carroll%20Quigley%20Excerpts.htm>

彼の哲学的な議題の中では、勝者は常に「働く貧困層」である。敗者は常に「金持ち」(政治的な話)だが、実際には、雇用主や中流階級、あるいはその両方である。レオは資本主義を否定した！彼の思想は、カール・マルクスの観念(社会主義)と多くの点において違いがなかった。⁴

その後1931年には、同じ「哲学」を継承した法王ピウス11世が、「共通の利益」のためには「自由競争」と「資本主義」を取り上げなければならないと述べた。「労働組合は奨励すべきだ！」この「理想」は、中央集権的な行政によって運営される世界秩序を支持するカトリックの社会教義の基礎となった。

歴史

世界の「秩序」を変えることは、ローマ・カトリック教会の対宗教改革の中心の夢(理想)となった(カトリックは中央集権を強調、宗教改革は個人を強調)。⁵

その目的は、1540年のSociety of Jesus(そのメンバーはイエズス会と呼ばれている)とトレント会議(1545-1563年)の形成へとすぐに続いていった。

- ・前者は(1)地政学的存在感を確立し、(2)グローバルな考え方に影響を与えるための世界的大規模な教育システムを作り上げることになる。
- ・後者は、カトリック教会の主要な教義を統一し、教皇至上主義を確立し、「信仰による義認」というプロテスタントの教義を非難し、聖書のみに基づく真理観を否定するようになった。

プロテスタント宗教改革の影響力の拡大を無力化するために大きな措置がとられたが(戦争から宗教改革へ)、神は、プロテスタント宗教改革が聖書に基づいた世界のキリスト教勢力となることをお許しになった。⁸

法王ピウス6世が1798年に拘束され、ローマを含む法王国家が1870年に新しいイタリア政府によって最終的に没収され、法王ピウス9世が孤立し、ローマ教皇のローマ主義は大きく後退した。

- ・しかし **1929年**、**ムッソリーニ**政権下のイタリア政府は、法王にバチカン市国を譲ることになる。

4 Ederer, Dr. Rupert J.; Inside the Vatican, "America and Catholic Social Teaching," October 2012, p. 42.

5 <https://distributistreview.com/archive/economic-law-and-catholic-social-doctrine-part-ii>

- ・それはすぐに世界的な国として認められ、数ヶ月後には他の国々との大使の交流も始まった。
- ・最も小さい国(108.5 エーカー、0.44 キロ km²)であるにもかかわらず、最も強力な国家の一つとなり、それは今日13億2899万3千人の教会員を擁する最も強力な教会の一つになった。(2020年10月、<https://www.christiantoday.co.jp/articles/28650/20201019/catholic-church-statistics-2020.htm>)

教皇を元首とした世界秩序という夢が復活した。しかし、「どのような地政学的な出来事が、これを現実のものにする口実になるのだろうか？」という課題では、第二次世界大戦が、二度と世界大戦を起こさない社会を再構築するための最初の機会となった。

彼らの頭の中にある世界政治と権力

カトリックの指導者たちは、フランクリン・D・ルーズベルト大統領との間で、道徳的なグローバル理念としての「社会主義」のメリットを説明するための非公開会合を始めた。⁶

カトリックの指導者たちは、フランクリン・ルーズベルト大統領と個人的に会うようになり、道徳的な世界的イデオロギーとしての彼らの「社会教説(カトリックの社会主義思想)」の利点がまとめられた。

- ・それが「ニューディール政策」の基盤となった。
- ・1941年1月6日、大統領は議会で主要原則について演説し、その夢を「新道徳秩序」と呼ぶようになった。⁷

興味深いことに、カーネギー国際平和基金が「新世界秩序」と呼ばれる文書を発表したのは、その1年前(1940年)のことである。米国国務省はまもなく、世界の恒久平和のための計画として採択するようになった。⁸

ルーズベルト大統領の州議会演説の後、世界を10の地域(黙示録17章の獣の角の正確な数)に分けた見事な地図が出版された。⁹

多くの謎が深まった。地図の一番下には、カトリック社会教説(社会主義)を反映した「新世界道徳秩序」と呼ばれる世界平和のための重要なガイドラインがあった。さらに、そこには、イスラエルの国もあったが、

6 Woolner and Kuvial, FDR, the Vatican and the Roman Catholic Church in America (1933-1945), Palgrave, NY, 2003.

7 <https://www.fdrfourfreedomspark.org/2017/1/6/four-freedom-speech>

8 <https://claremontreviewofbooks.com/new-world-order1/>

9 https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Gomberg_map.jpg

イスラエルの建国は、その7年後であった！また、北米の統一性も示されていたが、1994年のNAFTA（北米自由貿易協定）の成立まで、正式化されることはなかった。これは超自然的に思えた。その後、**新世界秩序**を促進するための劇的な動きが始まった。

カトリック教会とバチカン、ともに**聖座 “the Holy See”**と呼ばれ、国連において影響力のあるNGO（非政府組織）となった。

次に、B・F・スキナー（行動心理学者）、英国のハーロルド・バトラー卿、オランダのベルンハルト王子、ウィリアム・ジェナー、アイゼンハワー大統領などが、**新世界秩序のコンセプト（概念）**を推進し始めた。

1950年2月9日、その上院外交委員会は、上院決議66にて「普遍的な平和と正義を達成するためには、現行の国際連合憲章を変更して、**真の世界政府憲法**を定めるべきである」と採択した!!!¹⁰

ロックフェラー財団は、1959年に米国外交政策に向けた「The Mid-century Challenge to U.S. Foreign Policy ミッドセンチュリー・チャレンジ（米国の外交政策に対する世紀中期の挑戦）」と題された本を出版し、新たな世界秩序を求めた。

1967年3月26日、法王パウロ6世は、バチカンの社会的理念を推進するために、回勅「ポピュララム・プログレシオ（Popularum Progressio）」を発行した。『ウォールストリート・ジャーナル』誌は、即座に、これは「**マルクス主義の焼き直し**」にすぎないと指摘した。¹¹

優れた社会学者であり、大衆思想の天才であるアイン・ランドは、多くの指導者のエッセイからなる人類の鎮魂論『Capitalism: The Unknown Ideal（資本主義：未知なる理想）』をまとめた。

ローマ教皇の文書に対する彼女の教皇の回勅への答えは、「An Answer to the Papal Encyclical Progressio (pp. 315,362;1967年)」というエッセイに書かれている。

彼女は皮肉を込めてこう述べた：「**この回勅は資本主義に対する熱烈な憎悪の宣言**である。しかし、その害悪はもっと深遠で、その標的は単なる政治以上のものである」。

「カトリック教会は、**世界的な国家と世界的な神権政治を最終目標**として、中世の**教会と国家の連合を再**

構築する希望を捨てていない。... 失った権力を取り戻そうと必死に試みている」。

「**共通の目的**」で世界を一つにするためには、予想外の起爆剤はどうあるべきか？ 哲学的イデオロギーが進められていた。中央集権的な世界の力を必要とするいくつかの危機が必要だったように思われる。

1968年4月、新しい組織「**ローマ・クラブ**」が誕生し、世界の舞台に躍り出た。イタリアの実業家、カトリック教会のアウレリオ・ペッチェイと、スコットランドの科学者であるカトリック教会のアレクサンダー・キング、および（さまざまな分野の）国際的な人々からなる小さなグループによって設立され、地球規模の問題に取り組む「シンクタンク」として浮上した。

人々の心をとらえたのは、地域における世界的な問題によりよく対処できるようにクラブが開発した新しい世界地図だった。さらに、世界的に10に分割され、これもまた10の角と一致しており、ローマの獣（黙示録17章）に力を与えた。

その後、「The Limits to Growth（成長の限界）」という本が1972年に出版されたが、彼らが言うところの棚上げされている、緊急に取り組まなければならない地政学的危機の概要が書かれていた。彼らは、世界のあらゆる場所に影響を及ぼすかもしれない世界的な混乱状態を作り出し始めていたのだ！ そこから動き出した。リストにあげたのはほんの一部である。

- ・地球温暖化 - その後の気候変動
- ・人口抑制
- ・世界の飢えをなくす
- ・「グリーンエネルギー」による、枯渇した原油の埋蔵量への対応
- ・新鮮な水の不足
- ・交通機関の問題
- ・軍備管理

これらは、解決するために誰もが協力して取り組む、世界的な緊急事態として管理「しなければならない」。(マルクス主義)！ これは人気を博し地政学的な議題になった。¹²

世界が始動した

1974年、国際連合はベルギーのルーヴァンで平和のための世界宗教会議を主催した。国連総会が支持し

¹⁰ <https://www.hillsdale.net/opinion/20200411/only-super-rich-would-benefit-from-one-world-government>

¹¹ バチカン市国より引用、2012年10月、p. 44

¹² <https://clubofrome.org/publication/the-limits-to-growth/>

た「新国際経済秩序」と題された総括報告書は、富を富裕国から貧困国へ再分配するという道徳的計画を概説している。それは教皇レオ13世以来、ローマの社会教説の目的の一つでもあったのだ!!¹³ 現代版は2005年のパリ協定の中に入っている。

ローマ法王ヨハネ・パウロ2世は1978年に就任し、2005年まで務めた。彼は地政学に強い関心を持っていた！彼は、3つの回勅を通してカトリック教会の膨大な地政学的な「社会的教義 = 社会主義」に重点をおき強調するようになった。

- ・人間の仕事(働き)
- ・労働力と資本の対立
- ・労働者の権利

ここでもう一度、労働者階級に訴えるという「文化的・政治的な道具」と「人間の貪欲さ」に再び注目してほしい。労働者階級に訴えかける「文化的・政治的手段」と「人間の貪欲さ」に改めて注目してほしい。イエス・キリストの十字架と天の父への信仰は強調されなかった。

各文書で彼は、労働者階級の団結(労働組合)は「キリスト教の美德」であり、それは「社会秩序」の利益になると述べている。後に彼は「教会は、(1)人間の尊厳が適切に尊重され促進され(教会が減多に気づかないように)、(2)教会自らが世界で奉仕を行うために必要な空間を与えられることを条件に、経済的・政治的なシステムやプログラムを提案したり、どちらか一方を優先したりすることはしない。」と述べた。¹⁴

使徒ヨハネは言った：「10の角[グローバル地域の指導者たち]は、獣と一緒に一時王としての権威を受ける。「彼らは心をひとつにしている。そして、自分たちの力と権威とを獣に与える。その結果、『全地の人々は、驚き恐れて、その獣に従』(黙示録17:12-13;13:3)う」と。

「獣」とは、反抗的な国であるバチカン(黙示録17:9)であり、乗っている「娼婦」(背教した教会)がコントロールしている(3-5節)。

注解者ホワイトは洞察に満ちたコメントをしている：「預言では教会が権力の回復をする[アイン・ランドが恐れていたもの]」。¹⁵ 教会は「世界の支配権を取り戻す」だろう！¹⁶ まさに聖書が預言する通りであ

13 <http://www.un-documents.net/s6r3201.htm>

14 Sollicitudo Rei Socialis, p. 41

15 The Faith I Live By, p. 329

16 大争闘(英文) p. 565

る(黙示録13:7)。

別の国際会議(国連の主催)では、以下の最終指令が出された。「各国政府とその調整メカニズムだけに基づいたグローバル・ガバナンス(統治)は、もはや現代の地球規模の課題に対処するには十分ではない。…今、効果的なグローバル・ガバナンス(統治)が必要なのだ！」¹⁷

圧制の予測

ローマ教皇権が推し進めたローマ・クラブが『Limits to Growth(成長の限界)』を出版してから30周年を迎えたとき、劇的な変化なくして世界は生き延びることが出来ないという、本来の「恐ろしい」結論を正当化しようとして、新しく本を出版した。

CO2排出の対策に数十億ドルが費やされたが、環境は変わらなかった。エリート層に数百万ドル、特定の産業に数十億ドルの収入がもたらされただけだった。

ローマクラブの30年目の情報更新によると、海面は1900年以来10から20cm上昇した。ん?! そう、この年は彼らが使ったコンピュータ・モデルの基準年だ — 水位を測定するのに衛星やコンピュータが発明される以前の話だ！

しかし、地球の氷の総量は変化していない。その後、寒冷化傾向の影響により、タイトルを「地球温暖化」から「気候変動」に変更することが必要となった。¹⁸ 世界が早急に忠告されたことをしない限り、荒廃が進むというコンピュータ・モデル主導の予測は、すべて「コントロール・アジェンダ」以外の何物でもない。世界を「新しい世界」に「操る」ための、このような努力が続いている。世界を「巧みに操作し」、「新世界」へ導こうとする奮闘は続いている。

地政学が地球上に天国を作るかのように聞こえるように、ジョージ・ハーバート・ウォーカー・ブッシュ大統領は1991年、議会でこう述べている。「危機に瀕しているのは…世界秩序という大義名分で、多様な国家が人類の普遍的な願望を達成するために、共通の大義名分の下に一緒に引き寄せられるというものである。そのような世界は私達の苦闘の価値があり、私達の子供たちの未来にふさわしい世界である。…新世界

17 Global Citizenship Ethics for Effective Global Governance – the Rio 2012 Window of Opportunity(<http://www.glocha.info/gce.html>)

18 <http://donellameadows.org/archives/a-synopsis-limits-to-growth-the-30-year-update/> <https://www.forbes.com/sites/peterferrara/2013/05/26/to-the-horror-of-global-warming-alarmists-global-cooling-IS-IS/?sh=7d1c9eb94dCF>

秩序の待望の約束である」。¹⁹ (霊的なものは何もない。しかし、人間の性質上、実現不可能な理想主義！)

新世界秩序を支持する他のエリートの声

CFR (外交問題評議会) メンバーのウォルター・ウリントン (元シティグループ会長) は、自著 *The Twilight of Sovereignty* (主権の黄昏) の中で、「真のグローバル経済は ... 国家主権の妥協を必要とする ... これを避けることはできない」と述べた。²⁰ [それは予期する必要がある！]

CFR (外交問題評議会) 議長で 3 者提携主義者のストロブ・タルボットは、……「世界国家の誕生」という記事を 1992 年 7 月 20 日付のタイム誌に発表した。

まもなくローマに与えられるべき権力を聖句でもう一度見ると、次のようになる。「彼ら [10 本の角] は心をひとつにしている。そして、自分たちの力と権威とを獣に与える」(黙示録 17:13)。

「悪の勢力は力を結合し、統合しています。彼らは最後の大きな危機のために強化しています。大きな変化がすぐに私たちの世界で発生し、最終的な動きは急速になります」。²¹

この連合を成し遂げるのに、何がきっかけとなるだろうか？ それは市民が容易に政府の統制に屈するほど深刻で加速する危機を特定するためのグローバル主義的な計画の中にある。コロナの大流行は最も強力な手段だった！

辞任前 ベネディクト教皇 は「グローバル化は、いくつかのマイナス面にもかかわらず、より多くの人々を統合し、超国家レベルでの新しい『法の支配』に向けて彼らを駆り立てる。… 私たちの生活と財政を管理する一つの 世界政府 に服従するだけで、世界平和を手に入れることができる」と憂慮させるようなことを述べた。²²

2009 年 7 月 7 日、ベネディクト 16 世は、3 番目の回勅、*Caritas in Veritate* (カリタスインフェラティトー真実の慈悲) を発表した。これは、すべての国にとって衝撃的なものだった。教皇は自由市場と社会福祉の理想を中央集権的に融合させることをグローバル

社会に求め、そして「時宜を得た軍縮」と「食料安全保障と平和」を世界にもたらす目的で「経済を管理する」ための世界的権威を求めた。

この教皇は、教皇職が世界的権威でなければならぬことを示唆した。

彼の出版物に激しい反対があった：

カトリック教のジャーナリストのロッド・ドレーアー氏は、「彼の回勅は非常に厄介だ」と述べた。なぜ？なぜなら、これは私たちの政治的・経済的関係を合理化し、それを賢明な権威の下に置くだけで、政治的・経済的問題では、私たちは皆よりよくなるだろうという考えの下、世界的に中央集権化された政治的・経済的権力の創設に宗教的権威を結びつけようとしているからである。…それは圧制への誘惑である」。²³

オーストラリアのシドニーにあるレッドフィールド大学のマーティン・フィッツジェラルド教授によると、教皇は……人間を隣人以上に兄弟にし、平等以上に友愛にしているように見える。しかし、それを実現するためには警察国家が必要であると、彼は苦笑しながら述べた。

最も洞察力があり、それはまさに新世界秩序が必要とし、教皇が切望するものである !!!

世界政府への道

ローマ教皇レオ 13 世が「*Rerum Novarum* レールム・ノヴァールム (回勅)」の中で述べた中央集権的で統制のとれた世界という夢は、権力欲の強いエリートたちの興味を掻き立てた。

第二次世界大戦後の世界を理想主義的な「新道徳秩序」によって 1942 年までに再定義しようとした試みは、グローバリズムの概念を前進させるための幾千もの灯をともしきつかけとなった。

失敗した 国際連盟 は、1945 年 10 月に 国際連合 となった。世界政府 を求める声は、特に世界のリーダーや裕福な人々の間で高まっている。外交問題評議会 (CFR) は、1945 年から 1972 年の間に、500 人以上の世界の指導者がこの強力な非営利組織に参加したことで、新たな息吹を吹き返した。

その後、シンクタンク「ローマ・クラブ」が地政学に参入した。その出版物と地図は、おそらくどの出来事よりも、共通の議題を持つ国々の国際的な連盟に影響を与えてきた。しかし、世界 10 地域の統一は、現

²³ Dreher, Rod ; Editor, Reuters, The American Conservative , 2011 年 10 月 24 日

¹⁹ <https://www.nytimes.com/1991/01/30/us/state-union-transcript-president-s-state-union-message-nation.html>

²⁰ <https://dl.tufts.edu/teiviewer/parent/m900p531q/chapter/c2>

²¹ 9T p. 11

²² 法王ベネディクト XVI、2009 年

実とかけ離れている。「管理」の要素は、2つのことが明らかになるまで、はっきりしないままだった。

1. ドイツの経済学者、クラウス・シュワブ氏は1971年、国連の非政府組織 (NGO) として **世界経済フォーラム (WEF)** を立ち上げ、**スイスのダボス** で出版物やフォーラム、年次会議などを通して急成長した。出席者は2500人ほどになることがあった。フォーラムの会員になるには年間39,000ドルかかり、会議に出席するにはさらに29,000ドル払わなければならない。²⁴
2. **コロナが出現**した時、この世界的潮流への反応は組織化され世界中をおおった。コロナは2019年の12月に中国武漢で初めて確認された。世界保健機関 (WHO) は、このコロナウィルスを2020年1月には国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態だとし、**2020年3月にはパンデミック** (広範囲流行) だと宣言した。2020年12月8日の時点で、6780万以上の感染例が確認され、154万以上の死亡がコロナによるものであると発表した (しかし、彼らの統計が大幅に水増しされているという重要な証拠が出てきている)。²⁵
3. この伝染病の最中、クラウス・シュワブは「**今こそ『グレート・リセット』の時だ**」という論文を発表し、コロナを世界秩序を求めて統制をおこなう行事を立ち上げる「大義名分」だと見た。
4. その頃には、グループ (教会等) を孤立させ、人々の動きを封鎖 (ロックダウン) し、レストランを閉鎖し、さらにはマスクを着用するという措置の驚くべき成功が明らかになっていった! 個人旅行の制限は様々な方法で操作された。中小企業が壊滅的な打撃を受けたことを受け、政府は存続のための支援として「援助 (贈り物)」を用意した (義務と依存関係を生み出すもう一つの手段)。

シュワブ氏は次の勧告に従った。

1. 教育から労働条件まで、社会とその経済のあらゆる側面を改革する。
 2. すべての国が参加しなければならない。
 3. ガスや技術を含むすべての産業は変革されなければならない。「簡単に言えば、私たちは資本主義からの“グレート・リセット”が必要だ」。²⁶
- それはカール・マルクスからフランシスコ教皇まで

多くの人の夢だった。国連議題2030 (議題21の改訂) と足並みをそろえている。これらの勧告の緊急性は現在、Covid-19による大量の死者の数と、世界のコミュニティへの経済的な影響に基づいている (後者は市民指導者の孤立規制によって生まれた)。

「私たちは、経済・社会システムのためのまったく新しい基盤を構築しなければならない」「何も所有しない」「それで満足する」。²⁷ それは**ファシズム**である! (権力で労働者階級を押さえ、外国に対しては侵略政策をとる独裁制)

タイム誌 (2020年10月23日号) は、「**グレート・リセット**」を特集し、「**世界社会主義の到来を告げる**」と述べ、エリートたちは興奮した。資本主義を見直す「時」になるだろう。

ローマ教皇フランシスコは、新しい**回勅 Fratelli Tutti (フラテッリ・トゥッティ)** (「全ての兄弟達よ」2020年10月3日) を発表した。これは「グレート・リセット」に彼の承認印を押すものだ。彼は「大衆主義」(ナショナリズム) の概念を見直し、「より良い政治」を求めた。「**人民主義 (国粋主義)**」の概念を非難し、「より良い型の政治」を呼びかけた!²⁸

リーダー達は「グレート・リセット」を受け入れるために急ぐ

ジョー・バイデン氏は**国連のアントニオ・グテーレス事務総長** (2020年12月) との電話会談で、これらのグローバル主義的野望をすぐに受け入れた。²⁹

翌日、グテーレスはニューヨーク市にあるコロンビア大学のあるグループに次のように語った:

「気候と経済の偉大なリセットを通じて、私たちが反省し、道を正す時が来た。『企業は、グリーン経済のためにビジネスモデルを調整する必要がある。つまり、**炭素不排出への投資**を行い、グローバル主義組織が定めた回復計画に従うことを意味する。…、世界は『**パンデミック・リセット**』を利用して『より公平で公正な世界』を作るべきだ。『これは人にとっても地球にとっても真実の瞬間である。コロナと気候は私たちを限界まで追い詰めた。私たちは、かつての不平等、不正、地球に対する不注意な支配の状態に戻ることはできない。その代わりに、私たちは**より安全で持続可**

24 <https://www.vanityfair.com/news/2009/01/getting-to-know-klaus-schwab-the-man-behind-davos>

25 https://en.wikipedia.org/wiki/COVID-19_pandemic<https://www.weforum.org/agenda/2020/06/now-is-the-time-for-a-great-reset/>

26 <https://www.weforum.org/agenda/2020/06/now-is-the-time-for-a-great-reset/>

27 <https://m.facebook.com/worldeconomicforum/videos/10153920524981479/?refsrc=https%3A%2Fm.facebook.com%2Fstory.php&rdr>

28 <https://www.weforum.org/agenda/2020/10/here-s-the-pope-s-prescription-for-resetting-the-global-economy-in-response-to-covid-19/>

29 <https://www.breitbart.com/politics/2020/12/02/joe-biden-rushes-to-embrace-u-n-and-burnish-globalist-ambitions/>

能で公平な道へと歩を進めなければならない』。³⁰

その後、ジョー・バイデンは「よりよく構築しなおす」という経営テーマを掲げた。フランシスコ教皇は、その表現は「非常に印象的だ」と応じた。教皇は週刊発行の記事で次のように述べている：

「私たちは社会を再生することができるが、いわゆる『正常性』に戻ることはできない。それは病んだ正常性であり、実際にパンデミックの前に病んでいた。パンデミックによってそれが目立つことになった！」彼は、古い正常性は「不公平、不平等、環境悪化にうんざりしていた」と付け加えた。

「(これは)大きな夢を持ち、私たちの優先事項—私たちが何に価値を見出し、何を望み、何を求めているか—を再考し、私たちが理想とすることに基づいて日常生活の中で行動することを約束する瞬間である。神は我々に何か新しいものを作る勇気を求めている」と彼は断言した。「我々は、危機以前に我々が持っていた政治的、経済的システムの誤った安全状態に戻ることはできない」。

我々は創造の果実、生活の基本的な必要性、すなわち土地、宿泊、労働へのアクセス全てを与える経済が必要である。赤十字国際委員会のペーター・マウラー総裁は2020年の10月、今必要なのは『異なる、包括的な、人々を一つにし、現実が分断した社会の架け橋となる社会のビジョンを発展させることであり、これは私たちの共通の見解と努力の核心である。私たちは確かに聖座(教皇の座)と教皇の一緒であることをとても誇りに思う』と述べている。

詐欺の暴虐

ジョージ・バルナ博士とアリゾナ・クリスチャン大学の文化研究センターは、研究の結果、米国は社会の礎石として聖書の世界観を捨てる方向に向かっていることがわかったと発表した。

ジョンズ・ホプキンス大学が行ったコロナに関する以下の特別分析は、世界のエリートたちを混乱させた。

1. 高齢者の総死亡数は、パンデミックの発生前と発生後で同じだった。
2. 全年齢群の総死亡数はパンデミック開始前後で変化しなかった。
3. コロナは米国全体の死亡者数に影響を及ぼしていない。

³⁰ <https://www.breitbart.com/environment/2020/12/03/u-n-chief-guterres-demands-the-world-reset-to-forestall-a-climate-apocalypse/>

彼らはデータの誤分類があったと結論した。これは世界をリセットするためのグローバル主義者の欺瞞的な計画の一部なのか？ 証拠には抵抗できない。

結論

オバマ大統領は選挙運動で「信じていることができる変革(Change)」を訴えた。米国と世界は、自分たちが信じたくない「変化」をまもなく目にするという証拠が山ほどある。様々な声が緊急に警鐘を鳴らしている。

バーク枢機卿は最近、「グレート・リセット」が米国にマルクス主義を導入するだろうと警告した。ブライトバード・ニュースは、世界経済フォーラムの意図により各国の中央銀行や大企業に働きかけ、世界がコロナの予防接種を確実に受けられるようにしていると報じている。それは世界的な統制のためのもう一つの強制的なプラットフォームになるはずだ。ワールド・ネット・デイリーは、この傾向はアメリカの起業家精神を押しつぶすであろうと述べた。

コロナの大流行によって技術主義国家の暗い先行きが見えた。それと「気候変動」が「新世界秩序」を始める口実になった。…

聖書は、黙示録に、龍(サタン)のように語り、世界中の個人に対して生死を司る力を持ち、数字の666に関連する未来の支配国(「地から上ってくる獣」)について語っている。多くの学者や解説者は今、この時代が来たと見ている。その驚くべき専制支配を達成するためには、準備期間が必要である。我々は結論に達した！ ノアの時代がそうであったように、今もそうである。「地上もまた、神の前に腐敗していた」(創世記6:11)。

創造主なる神の「グレート・リセット」は、「人手によらない」神の新世界秩序である。ダニエル2:34、45、8:25

創造主による再創造の永遠の国である。黙示録21章、22章



背教のオメガか？ 「仲保者なしに生きることと 完全主義」

ΩMEGA

金城重博

私はセブンスデー・アドベンチストこそ第七日安息日再臨教団、預言された最後の真の教会であると心から信じています。「女の残りの教会」(黙示録 12:17)であることを信じてはばかりません。こよなく愛している教会であるが合点できない教えが教会に入ってきているので指摘したいと思います。



アドベンチスト・ライフ 11月号に掲載された記事は私にとって衝撃的でした。「仲保者なしに生きることと完全主義」という記事で、元世界総会聖書研究所所長、アンヘル・ロドリゲス神学博士の特集記事です。それは再臨信仰の土台・基礎に関する重大な教えであるので検証してみましょう。

三つの点に分けて考えてみます：

- I. ロドリゲス博士の「仲保者なしに生きることと完全主義」
- II. 聖書と証の書から検証
- III. 「背教のオメガ」

まずは、ロドリゲス博士の記事より拾い読みして、それから靈感の書から検証してみましょう：

I. 「仲保者なしに生きることと完全主義」(完全主義の定義については p20 で扱う)

アドベンチストライフ 2020年11月号7頁：

①ロドリゲス博士：「再臨の直前に、キリストが天の聖所において仲保・執り成しの働きを行われない期間があります。論理的に言うならば、キリストが地球においてになる時には、天におられないこととなります。エレン・G・ホワイトは、キリストが天を離れて地上に来られるまでには数日間かかると言っています。…

このトピックは、アドベンチストにとって非常に不安をかき立てられる話題です。もし、数日間、キリストが天で執り成しの働きをおこなわれないなら、その期間に犯した罪がどうなってしまうか分からないからです。ここに一つの妥協案が登場します。一部のアドベンチストは、執り成してくださる方がおられない**艱難の時**が来るまでに、**完全に罪のない状態が作りだされなければならない**、と主張しています。しかし**このような考え方は聖書的ではなく、エレン・ホワイトもこのようなことを一言も語っていません**。

アドベンチストライフ 2020年11月号9頁：

②ロドリゲス博士：「……彼女(エレン・G・ホワイト)は、**私たちが罪のない状態にならなければならないとは決して言っていません**」。

アドベンチストライフ 2020年11月号10頁：

③ロドリゲス博士：「**人が完全な状態に到達するという思想は、エレン・G・ホワイトの著作の一つも見つけることはできません**」。

④ロドリゲス博士：「彼女（エレン・G・ホワイト）は言いました。私たちが**律法にしたがうときに、私たちの生活から罪が取り除かれるのだと**」。参照 15“GiftsandOfferings.”RH1 月 17 日 1907 年 ,par.24 とあります。

⑤ロドリゲス博士は 10 頁にこう続けます。「もし日曜日に礼拝しているならば、それは罪であり、神の戒めに従って**土曜日に礼拝するようにすれば、罪は取り除かれたこととなります**。律法にはまた、私たちの自己中心を取り除く目的があります」。

アドベンチストライフ 2020 年 11 月号 11 頁：

⑥ロドリゲス博士：「『**艱難のときに、神の民が罪のない完全な状態に達する**』とは何処にも、一度も著されていません。…『**罪のない完全な状態**』という言葉そのものが、彼女の著作にはまったく用いられていないのです」。

⑦ロドリゲス博士：「では、実際に**罪が取り除かれていく過程**とはどのようなものなのでしょうか。私たちがイエスを**信じて義とされる**ときに、**罪は取り除かれます**。…これは一度きりのことではなく、クリスチャン生活を通じて神の律法に従い続けることによって、この経験は日々継続していくのです。…エレン・G・ホワイトは『律法』と『信仰』を結び合わせ、この二つは離してはいけないものだと言明しています。これが**私たちの生活から罪が取り除かれていく方法**です」。

⑧ロドリゲス博士：「**神の民がキリストの仲保者なしで神の前に立たなければならないとも言っていない**」。

⑨ロドリゲス博士：「**艱難の時までに、罪に打ち勝つて完全な者になるという考え方は自己中心的**です」。

アドベンチストライフ 2020 年 11 月号 12 頁：

⑩ロドリゲス博士：「私たちが罪に対して勝利するという意味は、**艱難の時までに罪が完全になくなる**ということではありません……」。

⑪ロドリゲス博士：「**艱難の時に、神の民は誰一人**

として、**自分には罪がないなどと考えたりしない**ということです」。

⑫ロドリゲス博士：「**執り成してくださるお方がおられない艱難の時を過ごす**ということは、**私たちが罪のない状態になってその期間を乗り越える**ということではありません」。

II. 聖書と証の書による検証

●「**天で執り成しの働きがおこなわれない期間 (仲保者の働きが止むとき) = 患難の時**」ということを知らない方がおられるかもしれないので、次ページで図解しておきます。

●**恩恵期間終了とは**、全人類の恩恵期間が終了してからキリストの再臨までの期間。愛の神が最後の一人までも救おうとする手を差し伸べるのを止める時のこと。「見よ、今は恵みの時、救の日である。」2コリント 6:2。

黙 15:5～8「その後、わたしが見ていると、天にある、あかしの幕屋の聖所が開かれ、その聖所から、七つの災害を携えている七人の御使が、汚れのない、光り輝く亜麻布を身にまとい、金の帯を胸にしめて、出てきた。そして、四つの生き物の一つが、世々限りなく生きておられる神の激しい怒りの満ちた七つの金の鉢を、七人の御使に渡した。すると、聖所は神の栄光とその力とから立ちのぼる煙で満たされ、七人の御使の七つの災害が終ってしまうまでは、だれも聖所にはいることができなかった」。

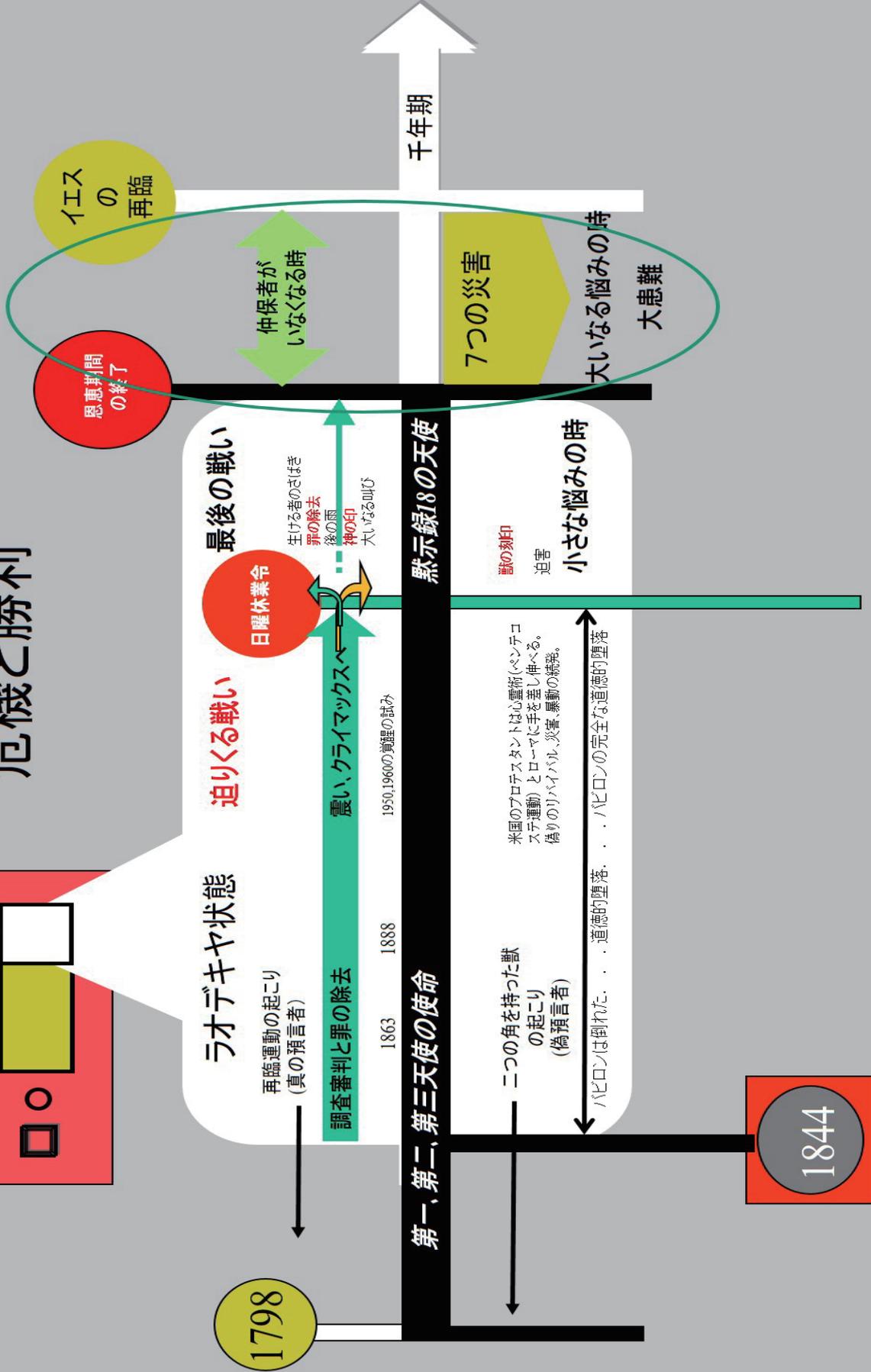
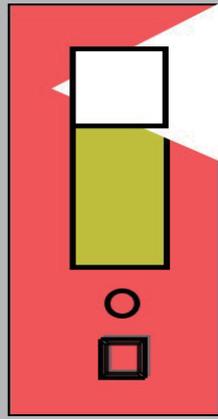
神の民のためにもはや至聖所に仲保者がいない時のことを言っています。そのことについて上記の聖句が述べています。その時には、神の民は祈りと信仰によって聖所に入れません。

●「**艱難の時**」とはいつの時でしょうか？ダニエル書 12: 1 に書かれています。

「その時あなたの民を守っている大いなる君ミカエルが立ちあがります。また**国が始まってから、その時にいたるまで、かつてなかったほどの悩みの時**があるでしょう。しかし、その時あなたの民は救われます。すなわちあの書に名をしるされた者は皆救われます」。

キリストは、「その時には、世の初めから現在に至るまで、**かつてなく今後もないような大きな患難**が起

危機と勝利



るからである。」と言われました。マタイ 24:21

それは再臨直前のことだとキリストは言われました。「しかし、その時に起る患難の後、たちまち日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、星は空から落ち、天体は揺り動かされるであろう。そのとき、人の子のしるしが天に現れるであろう。またそのとき、地のすべての民族は嘆き、そして力と大いなる栄光とをもって、人の子が天の雲に乗って来るのを、人々は見るであろう」マタイ 24:29,30。

1780年5月19日の大暗黒日、1833年11月13日の落星日、1755年のリスボン大地震を再臨前兆のしるしとして預言に当てはめますが、これらは確かに預言の部分的成就と言えるでしょう。しかし落星日は、1798年以後の1833年に起こっています。預言の完全な成就是、未来である再臨直前に起こるはずで

では、ロドリゲス博士の主張を靈感の書から検証していきましょう：

1. キリストが天を離れて地上に来られるまでの数日間は、仲保・執り成しの働きを行われない期間でしょうか？それまでは仲保の働きをしておられるのでしょうか？天を出発されてから、執り成す方がおられない時に犯した罪はどうなるのでしょうか？この数日間に罪を犯した者は永遠に失われてしまうのでしょうか？と著者（ロドリゲス博士※以下著者）は問いを投げかけていますが、その数日間に罪を犯した者が失われるのは確実です。

不安を与えるこのトピックの「一つの妥協案」として、著者はこの記事を書いておられます。

キリストが仲保者としての働きをお止めになるのはいつでしょうか？まだ天におられますが、艱難の時は、恩恵期間が終了しています。人類の**恩恵期間**は、「大いなる悩み = **艱難**の前、**7つの災害の前**に終了します。

著者の提示する妥協案は何でしょうか？恩恵期間が終了して艱難の時が来るまでに完全に罪のない状態になるという思想は、聖書的でもないし、証の書のどこにもそんな思想はないと繰り返し主張しています。

聖書のみ言葉から：

エペソ 5:27 に、イエスが迎えに来られる民は「し

みも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて**傷のない栄光の姿の教会**」であると書かれています。

黙示録 12:17 「龍は、女に対して怒りを発し、女の残りの子ら、すなわち、**神の戒めを守り**、イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った」。

黙示録 14:12 「ここに、**神の戒めを守り**、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」。

黙示録 14:4 「彼らは、女にふれたことのない者である。彼らは、**純潔な者**である。そして、小羊の行く所へは、どこへでもついて行く。彼らは、神と小羊とにささげられる初穂として、人間の中からあがなわれた者である。彼らの**口には偽りがなく**、彼らは**傷のない者**であった」。

確かに聖書には「完全に罪のない状態」という言葉は見つかりません。「品性」という言葉、「三位一体」という言葉が見つからないからと言って、その思想を否定するのでしょうか。

神の律法と完全に調和しているということ、傷のない栄光の姿の教会、144,000 は**傷がない**という表現は**罪がないこと**ではないでしょうか。

証の書は何と言っているのでしょうか？：

大争闘下 140 「天の聖所における**キリストのとりなしがやむ時地上に住んでいる人々は、聖なる神の前で、仲保者なしに立たなければならない**。彼らの着物は汚れがなく、彼らの品性は、血をそそがれて罪から清まっていなければならない。キリストの恵みと、彼ら自身の熱心な努力とによって、彼らは悪との戦いの勝利者とならなければならない。天で調査審判が行われ、悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去 (putting away of sins) が行われなければならない。この働きは、**黙示録 14 章の使命の中にさらに明瞭に示されている**」。

※この文の「罪の除去」という言葉は、putting away of sins = 罪を捨て去ることであって、罪の除去 = Blotting out of sins ではないと反論する人がありますが、昔イスラエルは、ヨム・キプール [贖い] の日に、仕事を止め、断食して、告白していない罪はないかと特別に魂を悩まし、心を深く探りました。罪が除去される (blotout) ために。艱難の時には「彼らの罪は、前もってさばかれて、消し去られています (blotout)。彼らは罪を思い出すことができない」大争闘下 383。

3SG135 「神の日に対する備えを遅らせてきた者たちは、悩みの時にも、またいかなる未来の時期にも備えができていない。義人たちは、真剣に救出を求める苦悩の叫びをやめないであろう。彼らは、いかなる**特定の罪も思い出すことはできない**が、**生涯を振り返っても、良いものをほとんど見ることができない**。彼らの罪は前もって裁かれ、赦しの文字が書かれていた。彼らの**罪は忘却の彼方へと運び去られ、彼らは罪を思い出すことができなかった**」。

黙示録 14 章には、144,000、完全に神の律法を守る人々のことが描写されています。次の文章を見ると明確です。:

- 「執り成してくださる方がおられない**艱難の時**が来るまでに、完全に罪のない状態が作りだされなければならない」という考えは間違っているでしょうか。神学的な詭弁でなく、靈感の言葉、大争闘下 369 から引用します。:

『**かつてなかったほどの悩みの時**』が、まもなくわれわれの前に展開する。それだから**われわれには、一つの経験—今われわれが持つておらず(エレン・G・ホワイト自身も含んで)、また多くの者が怠けて持つておかない経験—**が必要なのである。現実の困難というもの、予想したほどではないということがしばしばある。しかし、われわれの前にある危機の場合は、そうではない。どんなに生々しく描写しても、この試練の激しさには、とうてい及ばない。この試練の時に、人間は、みな、自分で神の前に立たなければならない。…(エゼキエル 14:20 引用)。

今、われわれの**大祭司がわれわれのために贖いをしておられる間に**、われわれは、**キリストにあつて完全になることを求めなければならない**。**救い主は、その思いにおいて**さえ、誘惑の力に屈服されなかった。サタンは、人々の心の中に、なんらかの足場を見つける。**心の中に罪の欲望**があると、サタンはそれを用いて誘惑の力を表わす。しかし、キリストはご自身について、「この世の君が来る……。だが、彼はわたしに対して、なんの力もない」と宣言された(ヨハネ 14:30)。サタンは、神の子の中に、彼に勝利を得させる**なんのすきも見つけることができなかった**。神のみ子は、**天父の戒めを守られた**。そして、サタンが自分に有利に活用することのできる**罪が、彼(キリスト)の中にはなかった**。**これが、悩みの時を耐えぬく人々のうちになければならない状態なのである**」。

上記の引用文は、①大祭司イエスが至聖所におられる間に、②「悩みの時」の前に罪のない状態になっていることを明言しています。「キリストに罪がなかった、欲望がなかった、サタンのつけこむすきがなかった、

完全であった。神の戒めを守った」。そのように、**艱難の時を通過する人々も、罪のない完全な「状態」にされると言えないでしょうか。**

「悩みの時=艱難の時」の前に、キリストと同じ罪のない状態になっている人々が出現するのです。ホワイトの著書を、「罪なき完全」と検索したら5か所出てきます。

「私たちの前には**最高にして最も清い模範**がある。思いにおいて、言葉において、行為においてイエスは罪がなかった。彼のなされたすべてのことが完全の標準である。『それからイエスは弟子たちに言われた。だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい(マタイ 16:24)』」FLB220。

「神は愛である。太陽の光のように、愛と光と喜びは、神からすべての被造物に流れ出る。与えることが神のご性格である。**神の生命そのものが無我の愛のほとばしりである。神はご自分が完全であると同様にわたしたちも完全になるように一と仰せられる。……神が神の領域で完全であられるように、わたしたちは自分の領域で完全な者となることができる。**イエスは、あなたがたの父が完全であられるようにあなたがたも完全な者となりなさいと仰せになった……**イエスに生み出したのと同じ品性を生み出し、イエスに現わしたのと同じわざを現わす。**…愛を通して『律法の要求が、肉によらず霊によって歩くわたしたちにおいて、満たされる』のである(ローマ 8:4)。」祝福 95-96。

エペソ 5:27 の注解:「キリストに対する信仰によって**神の戒めのすべてに従う者**だけが、**アダムの罪を犯す前に生きた罪のない状態に到達する**であろう。彼らは、神の律法のすべてに従うことによってキリストに対する愛を証するのである」スタディバイブル新 428(MS122,1901 年)。

黙示録 12:17, 14:12 の「神の戒めを守り」ということは、「**アダムの罪を犯す前に生きた罪のない状態**」であると言っています。

エペソ 5:27 は、教会がこのような状態になった時に、「**迎えに**」再臨なさると言っています。

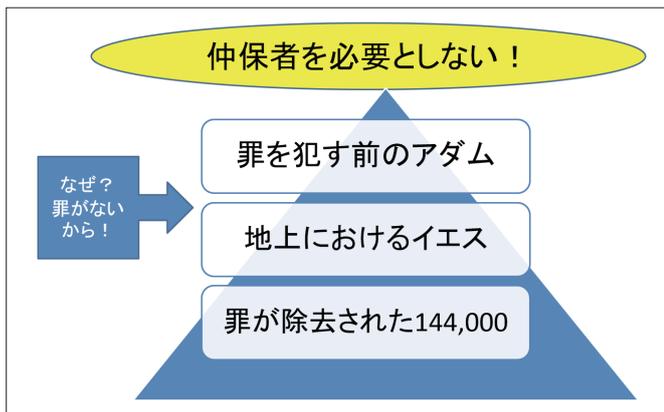
国下 193-196 「サタンは…近い将来、地上の邪悪な国々を扇動し、神の民を滅ぼそうとするのである。人々は神の律法に背いて、人間の布告に服従するように要求されるのである。…彼らは**自分たちの生活の罪深さを、十分認めている**。彼らは**自分たちの弱さと無価値さを知っている**。そして、**今にも絶望するばかり**である。…神の民が神の前で心を悩まし、**心が純潔になることを嘆願する時に**、『**彼の汚れた衣を脱がせなさい**』という命令が出される。そして、『見よ、わた

しはあなたの**罪を取り除いた**。あなたに祭服を着せよう』という励ましの言葉が語られる(ゼカ 3:4)。キリストの義というしみのない衣が、試練と誘惑に耐えた忠実な神の民に着せられる。さげすまれた**残りの民は栄光の衣を着せられ、世俗の腐敗に二度と汚されることはない**のである。彼らの名は小羊の命の書に書き留められて、各時代の忠実な者の中に加えられるのである。彼らは、欺瞞者の策略に抵抗した。彼らは龍がほえても、忠誠を失わなかった。**今や彼らは、誘惑者の計略から、永遠に安全なものとなった**。彼らの罪は、罪の創始者の上に移された。『清い帽子』が彼らの頭にかぶせられた」。

国下 196 頁には **144,000** の出現のことが描かれています。これは大いなる悩みの前であることは文脈から見てははっきりしています。

「わたしは天使たちが、天をあちこちと飛びまわっているのを見た。墨(すみ)入れを持った 1 人の天使が、地上から帰ってきて、自分の働きの終わったことを報告した。そこで**聖徒の数がかぞえられて封印された**。すると、それまで**十戒の納められている箱の前で奉仕しておられたイエスが、香炉を投げ捨てられるの**をわたしは見た。彼は両手をあげて、大きな声で、『事はすでに成った』と言われた。イエスが『**不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者を行うままにさせよ**』と厳粛に宣告されると、天使の万軍は冠をぬいだ。

各人の判決は生か死かのいずれかにきまっていた。イエスが聖所で奉仕しておられた間に、審判は死せる義人から次に生ける義人へとつづけられていたのである。キリストは、ご自身の民のために贖いをなして彼らの**罪を消し去り、み国を受けておられた**。み国の民はもうできあがっていた。**小羊なるキリストの婚姻**は終わった。『国と……全天下の国々の権威とは』、みなイエスと救いを継ぐ者へと与えられ、イエスは王の王、主の主として治められることになった」初代文集 452。



罪なき状態に 144,000 が仕上げられるのは、**大いなる悩み=艱難の前**であることがはっきりしています。「小羊なるキリストの婚姻」とは、聖徒たちの人性とキリストの神性の結合のこと(実物教訓 287)を指しています。

2. ロドリゲス博士の主張は、今、わが教会で主流の神学です。簡単に言うと、キリストの再臨の前に、艱難の時 = 大いなる悩みの時の前に、罪なき完全は不可能ということです。再臨の時に罪が完全に取り除かれるというのです。1960 年代以降、ある神学者は再臨前に罪なき状態は不可能と言っています(「聖所は回復される」にわが教会の著名な神学者たちの言葉が書かれています)。再臨信仰の土台・基礎を突き崩す教えです。

セブンスデー・アドベンチストのアイデンティティー(独自性)について、よく論議されてきました。第七日安息日という人がいますが、第七日安息日を守っている団体は 500 もあると言われています。我々の教会のアイデンティティー(独自性)は、他のどの教会にもない、至聖所における『調査審判と聖所の清め、最後の贖い = 罪の除去』の教理にあります。再臨の時に罪が完全に取り除かれるとするなら、セブンスデー・アドベンチストは生まれなくてよかったのです。

「神が彼らのために計画しておられる立場を占めることもできなくなる」という表現は、どういう意味でしょうか? キリスト教派は大きく分けて 300 もあるが、細かく分けると 20,000 ~ 30,000 もあると言われています(統計によってはそれ以上だと公表する人もある)。そういうキリスト教派の中で、他のどの教派にもない、SDA 唯一の教理は、至聖所における「最後のあがない」という教理です。信者から罪が完全に永久に除去され、品性が完成され、生きて主の再臨を迎えさせる特別な働きです。この教理こそ、セブンスデー・アドベンチストのみに与えられたアイデンティティーです。

ヘブル 9:28 「キリストも…**罪を負うためではなしに**二度目に現れて、救を与えられるのである」。

[not be to take away sin (Contemporary English Version), **罪を取り去るためではなく**

not this time to deal with sin(Philip), **罪を処理するためではなく**] と訳されています。

※この神学問題は、1960 年代に聖所の覚醒運動が起こった時に、我が SDA 教会で激論がありました。

1. 罪が取り除かれる時について：

- ロドリゲス博士は、アドベンチストライフ 2020 年 11 月号の 10 頁に神の戒めに従って土曜日に礼拝するようになれば、罪は取り除かれると言っていますが、それは、今、土曜安息日を守っている人のことか、それとも獣の刻印か生ける神の印かという、永遠の運命を決定する「最後のテスト」のときのことを言っているのでしょうか？

今、土曜日安息日に礼拝している人の罪は取り除かれているのでしょうか。私たちは、それはまだであることを経験で知っています。そんな人がいるとすれば、それこそ「完全主義者」です。

7 BC969 「たとい人が教会に連なっている、神の印が押されるまでは人は救われていないことを主は教えておられる」。

Maranatha233 「安息日を守っていると自称するすべての者が印を受けるのではない。他に真理を教える者たちの中に、額に神の印を受けない多くの者がいる」。

- ロドリゲス博士は、義と認められた時に「罪は取り除かれている」と言っています。それは毎日の罪のゆるしの経験で、罪が取り除かれるのでしょうか。罪のゆるしと罪の除去は別の経験です。

罪ゆるされて義認されても、罪は信者に残っている：

聖書の証言：

詩篇 51:1 ~ 3 「神よ、あなたのいつくしみによって、わたしをあわれみ、あなたの豊かなあわれみによって、わたしのもろもろのとがをぬぐい去ってください。わたしの不義をことごとく洗い去り、わたしの罪からわたしを清めてください。わたしは自分のとがを知っています。わたしの罪はいつもわたしの前にあります」。

RH1887/5/24 「ダビデは悔い改めた人になっていた。彼は告白し、自分の罪を憎んでいたが、それを忘れることができなかった」。

エレミヤ 2:22 「『たといソーダをもって自ら洗い、また多くの灰汁を用いても、あなたの悪の汚れは、なおわたしの前にある』と主なる神は言われる」。

イザヤ 59:12 (新改訳) 「それは、私たちがあなたの御前で多くのそむきの罪を犯し、私たちの罪が、私たちに不利な証言をするからです。私たちのそむきの罪は、私たちとともにあり、私たちは自分の咎を知っている」。

教役者への証 447 「あなたは今悔い改めることができるであろう。しかしたとえあなたの名前のところに『赦された」と書かれたとしても、あなたはたいへんな損失をこうむることになる。なぜならあなたが自分の魂の上につくった傷は残るからである」。Signs of the Times 12 August 1886, Testimonies Volume Eight 66, Testimonies Volume Five 41……

自分に罪の傷が残っているばかりでなく、イエスにも傷を与えるという事実を決して忘れてはなりません。

希中 5 「われわれが罪を犯すたびに、イエスは新たな傷を受けられる」。



犯した罪ばかりでなく、生来の罪も残っているという事実を覚えましょう。

4T496 「人の心の中には、生まれつきの利己主義と腐敗がある」。罪が除去されるまで、「生来の罪との格闘 (inbredsin) があり、外部の悪との戦いがある」RH1887/11/29。

ルター：クリスチャンの内にある原罪は、その人が死ぬまで残る」。TableTalk, CCLVI. 「バプテスマ後も罪は残る」同。Luther: Early Theological Works, The Library of Christian Classics, Vol. XVI, p. 317-324.



ウェスレー：「確かにキリストは罪が支配しているところを支配することはおできにならず、いかなる罪が承認されているところにも住まわれることはない。しかしキリストは、あらゆる罪と戦っているすべての信者のうちにおられ、そこに住んで下さる。その心がまだ、聖所の清めの型に準じて清められていなくても」。罪は聖所の清めの時まで残っていると言っています。



あ上 422 「キリストの血は、悔い改めた罪人を律法の宣告から解放したが、しかし、それは罪を消去するものではなかった。罪は最終的な贖罪の時まで聖所の記録に残るのである。そのように象徴においても、



罪祭の血は悔い改めた者から
罪を取り除いたが、罪は贖罪
の日まで聖所に残った。

犯した罪、罪の性質は再臨の時まで残っている のでしょうか？

OHC278 「キリストがおいでになる時、我々の卑しい体は変えられ、彼の輝かしい体のようにされる。しかし、その卑しい**品性**は、その時、清くされることはない。**品性の改変**は、彼がおいでになる前に起こるのである。我々の**性質**は純潔で清くしなければならない。我々の魂にご自分のみ像が反映されるのを主が喜びをもってごらんになるために、我々はキリストの心を持たなければならない。

再臨の時に罪が取り除かれなければ、いつ除去されるのでしょうか？

▲レビ記 16:30 聖所の儀式で、**贖罪の日に罪は除かれる**ことが明白に教えられています。：

「この日（至聖所における贖罪の日）にあなたがたのため、あなたがたを清めるために、あがないがなされ、あなたがたは主の前に、もろもろの罪が清められるからである」。

▲使徒 3:19, 20 **後の雨の時に罪は取り除かれる**：

「だから、自分の②罪をぬぐい去っていただくために、①悔い改めて本心に立ちかえりなさい。それは、主のみ前から③慰めの時がきて、あなたがたのためにあらかじめ定めてあった④キリストなるイエスを、神がつかわして下さるためである」。

大争闘下 218 「**調査審判と罪をぬぐい去る働き**は、主の再臨の前に完了しなければならない。死者は、書物に記録されたことによって裁かれるのであるから、彼らが調査されるその**審判が終わるまでは、彼らの罪はぬぐい去られることはできない。(1888年版では、[調査審判において]と付加されています)**。しかし、使徒ペテロは、**はっきりと、信者の罪は、『主のみ前から慰め [原文では refreshing (活気づけ、回復の意)] の時が」くる時」にぬぐい去られる**。そして、『キリストなるイエスを、神がつかわして下さる』と言っています(使徒行伝 3:19, 20 参照)。調査審判が終わると、キリストは来られる。そして、たずさえて来た報いを、それぞれの人の行いにしたがってお与えになるのである」。

大争闘下 218, 219 には明確に 1844 年から調査審

判と罪の除去の働きが始まったと書かれています。

※生ける者の裁きは、近未来である。日曜遵守令が強要されるときから。このことを証明する研究は、別の研究にします。

前述の引用文から明らかなことをまとめてみましょう：

- **調査審判と罪の除去**は不可分である。切り離してはならない。黙示録 14:6 節に**裁きの時は、永遠の福音**であると言われている。
- **後の雨**の時に罪が除去されることも不可分である。
- **最後の贖いの日**に消される。大争闘下 210, 211, 218 参照

天の聖所でキリストの血によって記録の書から罪が消される時、この地上の神の宮（聖徒たち）の心の記録から聖霊によって罪が消されるのです。罪を二度と思い出すことがないほど、徹底的に、永久に罪が除去されるという福音は、他のどの教派にも見られない教理です!!!

あ上 422 「キリストの血は、**悔い改めた罪人**を律法の宣告から解放したが、しかし、それは**罪を消し去るものではなかった**」。

2. 罪が許されること、罪が取り除かれる（除去）過程について：

- ロドリゲス博士は、**日毎の罪のゆるしと年毎の罪の除去**の違いをはき違えているようです。義認 = 罪のゆるしを受けても調査審判まで罪は取り除かれずに残っています。これは再臨信仰の土台です。死んだ義人は、死後裁きを受けるのです（ヘブル 9:27）。生きて主を迎える者たちは、生きて間に裁きを受けます。罪ゆるされて、「心はすすがれて良心のとがめ」から清められるが、その罪は除去されずに残っていることに言及しません（ヘブル 10:22）。人が罪ゆるされ、罪が除去されることの過程は、聖所に啓示されています。

（詩篇 77:13 「神よあなたの道（方法）は聖所にあり」 欽定訳）

至聖所での裁きと最後の贖いにおいて罪は取り除かれるのです。著者は、**罪が除去されることと至聖所で最後の贖い**のことには一切言及していません。

3. 神の民は仲保者なしで神の前に立つことについて：

大争闘下 140 「天の聖所におけるキリストのとりなしがやむ時地上に住んでいる人々は、聖なる神の前で、仲保者なしに立たなければならない」。

罪なき完全になっていなければならないことについては、5 ページの引用文を見てください。

大争闘下 386: 「イエスが聖所を去られると、暗黒が地の住民をおおう。その恐ろしい時に、義人は仲保者なしに聖なる神のみ前に生きなければならない。悪人の上に置かれていた抑制が取り除かれ、サタンは最後まで悔い改めない者を完全に支配する」。

国と指導者下 290 「罪人が仲保者なしに神の前に立つことが、どんなことであるかを知らなければならなかった」。

艱難の時に、再臨までまだ罪があるという考えこそが、再臨までキリストの仲保が必要であるという考えに導くので、「仲保者なしに生きる」という人たちは、預言者の明言は偽りということになり、証の書を否定することになります。「仲保者なし」という意味は「キリストなし」ということではありません。キリストなしに生きるという時は決してありません。「もろもろの罪から清められ」(レビ記 16:30) た人々は、至聖所において最後の贖いにあずかります。罪が完全に永久に除去されるが、神もイエスも聖霊も共に永久におられるのです。

4. 艱難の時までに、罪に打ち勝って完全な者になるという考え方は自己中心的でしょうか。

●神の「完全になれ」という命令と約束を信じないことこそ自己中心的ではないでしょうか。アブラハムがイサクを捧げよとの命令に従ったことは、自己中心的でしょうか。「彼は、神の約束を不信仰のゆえに疑うようなことはせず、かえって信仰によって強められ、栄光を神に帰した」ローマ 4:2。

5. 「艱難の時に、神の民は誰一人として、自分には罪がないなどと考えたりしないということです」

●しかり、アーメン!!1888年に「天からの最も貴いメッセージ」を説いた、ジョーンズ、ワゴナーたちは、信仰による罪なき完全を説きました。1888年のメッセージの言わんとするところは、「我々は無、キリ

ストがすべて」ということでした。1888年のメッセージを研究した医者、Richard Lukens, M.D は「全地を照らす光」という小さな本にまとめて、そのエッセンスは、

”In contrast to **our nothingness, God is everything**, He always was everything and always will be everything – 我々の無に対して、神はすべてであり、彼は常にすべてであったし、今後も常にすべてである“と述べています。

「**信仰による義認とは何か。それは人間の栄光をちりに伏させ、人間ができないことを神が人間のためになされる神の働きである。人間が自分の無価値 (nothing) さを認識するとき、キリストの義を着せられる備えができるのである**」 RH9/16/1902

● ST3/23/1888 「この汚れた体が彼 (キリスト) の栄光の体に似せて変えられ、形づくられるまでは「**私は罪がない**」と、我々は言うことができない」。

キ実 134,135 「わたしたちも天国にはいるまでは、もはや自分は試練に負ける心配はないと感じたり、自信を持ったりすることは安全ではない。救い主を受け入れた者は、たとえどんなにまじめな改心者であっても私たちは救われている、と言ったり、感じたりするようにその人々に教えてはならない。これは誤解を招きやすい。もちろん、わたしたちは、すべての者に希望と信仰とを抱くように教えなければならない。しかし、自らをキリストにささげ、キリストに受け入れられたことを知っても、なおわたしたちは、誘惑の手のとどかないところにいるわけではない (ヤコブの悩みの時もそうである)。……人がまず初めにキリストを受け入れ、心に確信を抱き始め、自分は救われたのだというときに、自己に依存する危険がある」。

※上の文だけによって、再臨の時にはじめて罪がなくなるのだと曲解する人たちがいます。しかし聖徒たちは、艱難の時の前に罪が完全に、永久に除去されているが、自分の内に罪がないと考えたり主張したりしません。そんなことをすると、ルシファーが犯した罪を犯すことになります。つまり、自分たちの内には善があるという意識が、罪の原点であったのです。

預言者たちが、E・G・ホワイトも含めて、「自分は預言者である」と主張しなかったことと同じです。バプテスマのヨハネは預言者と主張しませんでした。彼自身は「荒野で呼ばれる声である」と言ったのです。しかしイエスは、彼は最も偉大な預言者であると宣言しました。エレン・G・ホワイトは「あなたは預言者ですか」と聞かれたとき、「主の使命者である」と答えました。しかし、また預言者ではないとは言われませんでした。主張しなかったのです。

1 SM314 「我々は、決して『私は救われた』と言って

進歩することを止め、満足した状態に安んじてはならない。この考えをもてあそんでいると、目覚めて、祈り、さらに高いところに到達しようと努力する動機は止まってしまう。**どんなに清められた人も、キリストが来られるまで、また神の都の門をくぐるまではこのようなことは言わないであろう。**……人が弱さに満ちている限り……決して『わたしは救われた』と言うべきではない」。

人は印された時に救われるのです。聖書によるとキリストを受け入れたときに救われたのであり、聖霊の証印を受けたのです。しかし、それは始まりであり、最後のあがないで印を受けるまでは完成しません。生ける神の印を受けるのは、恩恵期間が閉じる前です(1SM66)。そうでありながら、彼はキリストが来られるときまでは『私は救われています』と言うことができないのです。「終わりまで耐え忍ぶものは救われる」のです。生ける神の印を受ける時は、品性の完成の時であり、「彼らは誘惑者の計略から、永遠に安全」とされます(国と指導者下 196)。信者は生ける神の印を受けたときに、罪なき者となるのです。しかし、彼らは不死の体に変えられるまで「私は罪なき者である」と言うことはしません。

6. 罪なき完全な品性は、神とキリストのみ名・律法・ご品性の擁護のために必須であります。

※完全になることは、自己中心的ではありません。かえってロドリゲス博士の考え方が自己中心的な考え方ではないでしょうか。再臨前に、最も不利な状況において、イエスのように罪のない聖なる集団が出ることは、神とイエスの擁護のためなのです。

イザヤ 43:25 「わたしこそ、**わたし自身のためにあなたのとがを消す者**である。わたしは、あなたの罪を心にとめない」。

エゼキエル 36:22-23 「あなたはイスラエルの家に言え。主なる神はこう言われる、イスラエルの家よ、**わたしがすることはあなたがたのためではない。**それはあなたがたが行った諸国民の中で汚した、**わが聖なる名のため**である。わたしは諸国民の中で汚されたもの、すなわち、あなたがたが彼らの中で汚した、わが大いなる名の聖なることを示す。わたしがあなたがたによって、彼らの目の前に、わたしの聖なることを示す時、諸国民はわたしが主であることを悟ると、主なる神は言われる」。

神の聖なる名のためです。名は、神の栄光、ご品性を表します。(出エジプト 33:18 ~ ,34:1 ~ 7、黙示

録 14:1 参照)

私たちが完全にならなければならないのは、**神のご品性の擁護のため**です。私たちが救われなければならないのは、**キリストのため**なのです。私たちはキリストのために天国に行かなければならないのです。私たちの救いの考え方は、あまりにも自己中心的でありま

した。私たちが造られ、存在しているのは何のためでしょう？

イザヤ 43:7 「すべてわが名をもってとなえられる者をこさせよ。わたしは**彼らをわが栄光のために創造し、これを造り、これを仕立てた**」。

神は、サタンの主張が誤りであることを立証し、創造主ご自身の品性と律法の擁護のために、私たちを必要としておられるのです。このことを知ったとき、ただただ神様、命を捨ててくださったイエス・キリストのために生きるのだという新しい境地—たたえてもたたえても讃えつくせない—に至りました。

RH1903/4/22 「**神が我々を必要とされたから存在するようになったのである**」。

7. 「完全主義」と完全な品性をはき違えてはならない！

「**完全主義**」とは何か？神学者でなく、預言者に説明してもらいましょう：

初代文集 196 頁「神は、いわゆる**完全主義(付録参照)や精神主義**と呼ばれる誤りに前に陥って、その心と判断力が弱くなった人々に、神の尊い群れを養うことをお委ねにはならない。彼らは、こうした誤りに陥っていたときの行為によって、自分自身をはずかしめ、神のみわざに非難を招いたのである。彼らは、今、誤りから離れて、この最後の使命を教えるために出て行くことができると感じるかも知れないが、神は、彼らをお受けいれにならない。神は、尊い魂を彼らにお委ねにはならない。なぜなら、彼らの判断力は、誤りに陥っていた間にゆがめられ、弱くなっているからである」。

初代文集 487,488 の付録を見ると、次のように説明しています：

「1844 年の経験のしばらくあとで、初期の再臨信徒の中には、神を見失って、**狂信主義**に走った人々があった。エレン・ホワイトは、このような**極端主義者**に対して、『主はこう言われる』をもって答えた。**肉における完全な状態に達したのだから罪を犯すことはあり**

えないと教える人々を、ホワイト夫人は譴責した。そのような人々について、ホワイト夫人は、後に次のように書いた。

『清められた者は、罪を犯すことができないと彼らは考えた。そして、これは当然のことながら、清められた者の愛情や欲望は常に正しく、彼らを罪に陥れる危険は決してないという思いを抱かせた。こうした詭弁のもとに、彼らは、聖潔という衣のかげで最悪の罪を行っていた。そして彼らは、その欺瞞的催眠術の影響によって、彼らの仲間のある人々に対して不思議な力を及ぼしていた。彼らは一見立派ではあるが、欺瞞的なこうした説の害悪を見ることができなかった。

これらの偽教師たちの欺瞞が、はっきりとわたしの前に示された。そして、わたしは、記録の書のなかに、彼らに対して恐るべきことが記されているのを見た。そして、その日常の行為が、神のみ前に憎むべきものであるにもかかわらず、**完全な清めに到達したと主張する人々**に負わせられる恐るべき罪を、わたしは見たのである』(ライフスケッチズ 83, 84 ページ)。

8. 聖書と証の書は完全な品性について何と 言っているのでしょうか？

ヘブル 6:1 「そういうわけだから、わたしたちは、キリストの教の初歩をあとにして、**完成**を目ざして進むのではないか」。

マタ 5:48 「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも**完全な者**となりなさい」。

ST1901/7/17 「完全になりなさい(マタイ 5:48)。神に仕える者は完全を目指すべきである。クリスチャンは前に、上に完全に向かって進まなければならない。あがないの主は彼らを世から選んで、彼らに**彼の罪なき生涯を標準**として残された」。

この問題こそサタンが最も憎む、我々が最もよく知るべき大真理です。

大争闘 221 「サタンは、数え切れない多くの策略を考え出して我々の心をつらえ、我々が最もよく知っていなければならない働きそのものについて、われわれに考えさせまいとしている。大欺瞞者サタンは、贖罪の犠牲と全能の仲保者の働きを明らかにする大真理を憎んでいる。イエスと彼の真理から人々の心をそらすことに、万事がかかっていることを、彼は知っているのである」。

特に最後の仲保の働きを憎んでいると言われていま

す。

大争闘下 222 「聖所と調査審判の問題は、神の民にとってははっきりと理解されねばならない。すべての者は、自分たちの**大なる大祭司キリストの立場と働きについて**、自分で知っている必要がある。**そうしなければ、この時代にあって必要な信仰を働かせることも、神が彼らのために計画しておられる立場を占めることもできなくなる。…どんなにか重要であろう。…何よりも重要である**」。

贖罪の犠牲と理想、完全

キ道 10 「私どものあがないのために払われた価、私どものためにそのひとり子に死をさえおゆるしになった天の神の測り知れない犠牲を考えると、キリストによって私どもは**非常に高潔な状態に到達することができるという観念**をおこさずにはおられません。」

患下 268 「真のきよめは完全な愛、完全な従順、神のみこころへの完全な一致を意味する。われわれは真理に従うことによって神へときよめられる。われわれの良心は、死んだ働きから生きた神に仕えるためにきよめられなければならない。**われわれはまだ完全ではない。**しかし利己心と罪のもつれから切り離されて、完全へと進むことはわれわれの特権である。大きな可能性、高くきよらかな完成がすべての者の手の届くところに置かれている」。

ミニストリー・オブ・ヒーリング 490 「わたしたちは、絶えずキリストの新たな啓示と、その教えに一致した日常の経験とを必要とする。高尚な、神聖な域に到達することは可能であって、絶えず知識と美徳が向上していくことは、わたしたちに対する神のみ旨である。神の律法は、神がすべての人を招いて、『もっと高く上がってきなさい。もっともっと、きよくなりなさい』と言われる、み声の反響である。このゆえにわたしたちは日々、**クリスチャン的品性の完成**に進むことができるのである。』

希中 20 「**神がご自分の子らに望まれる理想は、人間の最高の思いが達することができるよりももっと高い。**『それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい』(マタイ 5:48)。この命令は約束である。あがないの計画には、われわれをサタンの権力から完全にとり戻すことがもくろまれている。キリストは、悔い改めた魂を、いつでも罪からひき離される。主は、悪魔のわざを滅ぼすためにおいでになったのであって、すべての悔い改めた魂に聖霊を与え、罪を犯さないように道を備えられた」。

希中 20 「一つの悪の行為に対して、誘惑者の力は言いわけにならない。サタンは、キリストに従うこと



を告白している人たちが、品性の欠陥について言いわけをするのをきくとこおどりして喜ぶ。罪へいたらせるのはこのような言いわけである。罪を犯すことに言いわけはない。悔い改めて信ずるすべての神の子らは、聖なる気質を持ち、キリストのような生活にはいることができるのである」。

希中 20,21 「**クリスチャン品性の理想は、キリストに似ること**である。人の子キリストが、その生活において完全であられたように、キリストに従う者も、その生活において完全でなければならない。イエスは、あらゆる点において、兄弟たちと同じようになられた。イエスは、われわれと同じように、肉体をおとりになった。彼は飢え、渇き、お疲れになった。主は、食物によって力づけられ、睡眠によって元気を回復された。イエスは、人と同じ身分でありながら、しかもきずのない神のみ子であられた。イエスは、肉体をとられた神であられた。**キリストのご品性がわれわれのものとなる**のである。主を信ずる者について、主は、こう言われる、『わたしは彼らの間に住み、かつ出入りをするであろう。そして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう』(2コリント 6:16)」。

祝福 94-96 「この標準はわたしたちの到達できないものではない。神のお与えになる命令や指図にはみな約束、しかも非常に積極的な約束が含まれていて、それがその命令の基礎となっている。…**神が神の領域で完全であられるように、わたしたちは自分の領域で完全な者となる**ことができる。…あなたの中にあるこの生命が、**イエスに生み出したのと同じ品性**を生み出し、イエスに現わしたのと同じわざを現わす。こうしてあなたは主の律法のすべての戒めに調和するようになる」。(希中 20、教育 8、大争闘下 396,397、患難下 270、実物 331、ダニエル 8:14、レビ記 16:30 参照)

真に悔い改め、キリストを信じた者は、キリストの功績のゆえに、「子たる身分」を受けます。今まで罪を犯さなかった者として、神の前に義と認められて立つのです。

4T367 「人はその生ける頭(かしら)であられるキリストに至るまで成長することができる。それは瞬間の働きではなく、生涯の働きなのである。神の生命の内に日々成長することによっても、**人は恩恵期間が閉じるまで、キリストにある完全という最高の高さに到達することはない**」。

※この引用文は、完全な状態になって裁きに臨むと推定しているどんな見解も、永久に片付けてしまうはずで、人はその恩恵期間が終わるまで、この完全な状態に達することはないのです。辞書によると、否定形を伴う「～まで」という語は、「～の前に」という

ことを意味します。従って、信者はその人の恩恵期間が終了する前に、完全な状態に到達することはないのです。さて、人の恩恵期間が終了するのは、その人が**死ぬ時か、生ける者の裁きの時**です。信者はそのどちらかの時が来る以前に完全な状態に到達することはないのです。

- ・死んで後、裁きにおいて罪が除去される。
- ・生きている者は生ける者の調査審判の時、罪が除去される(「いつ生ける者の裁き?」については別のプリントがあります)。

完全な品性一罪のない状態でしょうか?

ST1901/7/17 「完全になりなさい(マタイ 5:48)。神に仕える者は完全を目指すべきである。クリスチャンは前に、上に完全に向かって進まなければならない。あがない主は彼らを世から選んで、彼らに**彼の罪なき生涯を標準として残された**」。

罪なき完全の教えには、至聖所における調査審判・最後の贖いという福音が添えられています。彼らは、知っている罪にすべて勝利している者たちだが、何の功績も神の前に提示できないで、なお心の純潔を懇願します。彼らのためにすべての罪が除去されるのです(国と指導者下 193-196)。聖霊の最後の働き、罪の除去を経験するのです。罪のない状態にされるという驚くべき奇跡を経験するのです(大争闘下 397)。それでも彼らは、決して、決して自分の内にある善を意識し、自分に功績があるとは思いません。永遠にわたって、「キリストが我らの義」です。天国に行っても、次のように言うでしょう。「主よ、あなたをおそれず、御名をほめたたえない者が、ありましようか。**あなただけが聖なるかた**であります」(黙示録 15:4)。

至聖所で、最後の贖いで完全にされた人は、完全主義者ではありません!!! 完全主義は中世時代のカトリックの神秘主義であり、自分の主体的体験に目を向けて、平安がありませんでした。

及川吉四郎牧師の言葉を引用します。:

「聖化の目的は、栄化への備えにほかならず、その備えの完結は、至聖所における罪の除去、言い換えれば完全到達ということですが、それもまた義認同様、神の一方的な恩寵による以外の何ものでもないわけです。それがわかったとき、私は長い間つづいていた救いに対する不安、懸念、心配は、完全に一掃されたのでした。

重ねて申し上げますが、我々が入信時に与えられた

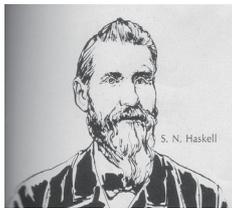
義認、これは十字架上でキリストから天国への救いを保証された泥棒が、罪以外何のいさおし(功績)もない身でありながら、神の一方的な全くの恩寵による救いであったように、**最後の義化、『罪なき完全の達成』も、やはりわれらの努力や功績によるのではなく、全くの神の一方的恩寵によるものなのです**」(人類救済の神の計画とその象徴的模型としての聖所 p150)。

再臨信仰の先駆者たち：



「多くの者は、人が死ぬ準備ができていたら、主の再臨に備えができていていると思っている。しかし、彼らは**死ぬことと生きて主を迎える立場の違い**を考えない。①主にあって死ぬこと一父のみ座の前でとりなすキリストに彼らの霊をゆだねて死につくことと、②主が人類のためにとりなしを止め、大祭司の務めを止めて敵に報復し、ご自分の民を迎えにおいでになるときまで、**悩みの時を通過して生きる人々とは大きな違いがある**。このことを認める者は、神のあわれみによって、聖徒たちの完全のために配慮されている方法に対して感謝するであろう」L.S. of James and Ellen White 431。

「調査審判において、価値ある者とされた人は、**天に仲保者なくして生きるのである。彼らの経験は、この地上に住んだどのグループとも異なっているのである**」The cross and its Shadow 221. S.N. ハスケル



「恩恵期間が閉じる前に、罪深い肉にありながら罪なくして生きる完成された民が現れるであろう。彼らは**朽ちる肉体で罪なき生活をする**であろう。なぜなら、**罪深い肉において罪なき生活を主はなされたからである**」G.C.Bulletin1901,146、148。E.J. ワゴナー

1888年の使命者として用いられたワゴナーとジョーンズの言葉：



「神の奥義が成就する場所が2か所ある。一つは述べ伝えられなければならないこの世であり、もう一つは真理を信じる者の生活である。もし、真理を述べ伝える者の生活にその完成がな



いと、1万年たっても終わりは決してこないであろう。**信者が肉において神を表すことの完成がなければ、神の奥義の成就是あり得ない**」G.C.Bulletin,1899,115. A.T. ジョーンズ

ロドリゲス博士の神学思想は、1960年代のヘッペンストールの時から顕著になってきました。再臨前に罪なき完全は不可能という思想です。なぜなら、信者は罪は犯さなくなるが、原罪—罪の根・泉は、再臨の時まで残っているからであると。



「クリスチャンは、なおもその内に悪の泉、墮落した性質が残っていることを知っている」ST2-1963。

「古い人は我々の死、またはキリストの再臨の時まで我々の内に残る」Definition of Righteousness,18。

「この原罪はクリスチャンと非クリスチャンに、彼らが死ぬか、昇天するまで残る」Definition of Righteousness,20。

「ここにこの地上での**罪なき品性に関して最も厳粛な警告**がある。クリスチャンは彼の内になお悪の泉、墮落した性質が残っていることを知っている」ST12-1963。

ロドリゲス博士の記事から読み取れること：

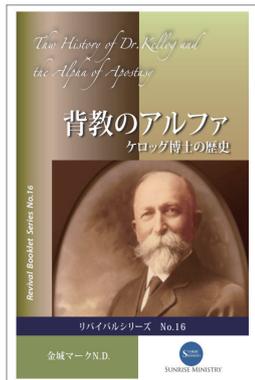
- ① キリストとサタンの大争闘において、最後の時代に神のご品性を擁護する必須性が見られない。
- ② 至聖所における調査審判と罪の除去が捻じ曲げられている。
- ③ 改心した信者に罪は残っていて裁きの時に罪が除去されるという真理がない。義とされた時に罪の除去があり、毎日の聖化において罪が除去されることは、証の書に反する。
- ④ 安息日を守っているなら、人は救われ、印されるという誤解を与える。最後のテスト一日曜遵守強要令で大部分の者が信仰を捨てると言われている(大争闘下 378)。

III. 背教のオメガについて

エレン・G・ホワイトは1904年に預言されました。:

「私たちの前に今、背教のアルファがやってきてい

る。まもなくオメガが続くことをわたしは知っている。そしてわたしはわが民のために身震いした」シリーズ #2、50、SpTB02531SM203。



背教のアルファは、我が教会に分断をもたらしたことのある致命的な教えでありました。ギリシャ語のアルファベットの最初と最後の文字を使ってアルファとオメガの背教と言われています。弁護士ルイス・ワルトン氏は「オメガ」という本を書いて有名になった人です。ジョン・ハーヴィー・ケロッグは、SDAばかりでなく、世界的にも知られた有名な医者です。ケロッグ・コーンフレークでも知られています。背教がいかに巧妙に我が教会に入り込んできたかということについて知りたい方は、ルイス・ワルトンの「オメガ」を読んでください。オメガ I は津嘉山睦兄によって訳されていますが、II はまだ訳されていません。さらに詳しくは、<http://www.sdadefend.com/MINDEX-Resource%20Library/Alpha-Apostasy.pdf> Vance Ferrel も参考になります。



背教のアルファというのは、ケロッグ医師によって1900年代初期に書かれた「**生ける宮**」という本にある誤った教えのことです。ほとんどの指導者は、すばらしい本だと評価していましたが、インドから帰ってきたウィリアム・スパイサー宣教師は、ケロッグの新しい神学にヒンズー教(汎神論)と共通するものがあることにいち早く気づきました。驚いたスパイサーは、個人的に会って彼の誤りを正そうとケロッグに面会を求めました。

津嘉山氏訳の「オメガ」から引用します。オメガ 23-25 頁：

「危険に気づいたのはごく一部の人々であったが、危機はすでに到来していた。ケロッグの新刊書に、**これまで例を見ない程の教理の危機**を招く要素の数々が隠されていたのだ。

もう何年間か、ケロッグは神の性質に関して妙な発言をしており、最近の世界総会の席上でも『神は私の内にいる』と話した。『なんでも私のすることは神の力の表れであり、一つ一つの行動が神の創造的な業で

ある』。それは神の存在をごく身近な所まで引き寄せられるかのような魅力的な考えで、早くもよく知られた教団の思想家の何人かの興味を捕らえていた。ケロッグの言うところによれば、我々が吸う空気は、神の聖霊を実際に体内に送り込む媒体であり、日光は目に見える神の『シェキーナ』(神の臨在、後光：訳者註)であるというのだ。その考えには一種独特の魔力があり、高い教育を受けた者でさえこの新しい考えに飛びつき、ケロッグの燃えるような伝道熱は彼らにも伝わっていくのだった。この趣旨は、彼が『**生ける宮**』と題したゲラ刷りの新書の中により強く表されていた。人体の内には『**肉体を造り創造する力**』があり、『それは神ご自身で、宮なる肉体に満ちる神のご臨在』であると彼は主張するのであった。

この考えは人をキリスト教から引き離し、神とか天国とか呼ばれる場所も無用の、何らかの宗教的神秘論の世界へ引きずりこみかねないと気づいた者は多くはいなかった。

…スパイサーは、個人的に会って彼の誤りを正そうとケロッグに面会を求めた。……

『神はどこにいるのだろうか?』とケロッグが尋ねた。『天国におられるのですよ』とスパイサーが答える。『聖書はそこに神の御座があり、その命令通りに動く天の住人たちのことが書いてあります』。

スパイサーより13歳も年上で50歳になるケロッグは、その手を芝生の方へ向けると、神は草の中にも木にも、そこいらにある全てのものの中にいる、と言いつつ放った。

『天国とはどこかね?』と彼が聞いた。

『宇宙の中心』とスパイサーが答えた。『そしてそれがどこなのかは誰も言う事はできないでしょうね』。

『天国は神のいる場所で、神はどこにでもおられるのだよ』とケロッグは言い返した。

スパイサーは呆然としてそこから帰ってきた。誰も予想しなかった巨大な何か、教会をも震わせるほどの何物かの一角を目撃したことを感じながら……『このような考え方には、天使が天と地球の間を駆け巡ることも無く、聖所の清めも遙かな天での出来事ではなく』人の心が『清められるべき宮』なのだった。

これは「汎神論」であり、エレン・G・ホワイトも恐ろしい誤りであることを警告しました。つまり、ケロッグ医師は、『**天国は、字義通り天にあるのではなく、我々のこのころの内にある。天に字義通りの聖所があるのではなく、我々が生ける神の宮である**』と教えたのです。聖書の言葉を用いて (ルカ 17:20,21, 2 コリ 6:16)。

私は、預言者エレン・G・ホワイトをして「わが民のために身震いした」と言わせた「背教のオメガ」とは何かを知る重要な、危機的な時に来ていると感じています。

「惑わされてはいけない。多くの者が偽りの霊と悪魔の教理に耳を傾け、信仰から離れていく。今我々が直面しているのは、この危機のアルファであり、**オメガは最も恐るべき性質のものである**」Special Testimonies, Series B, No. 2, p16.

『生ける宮』には恐るべき背教のアルファが提示されている。オメガはその後に続く。そしてそれは神が与えられた警告に耳を傾けない者たちに受け入れられるだろう」ISM200。

「オメガ」の著者、ルイス・ワルトン弁護士は、p 70 に次のように書いています。:

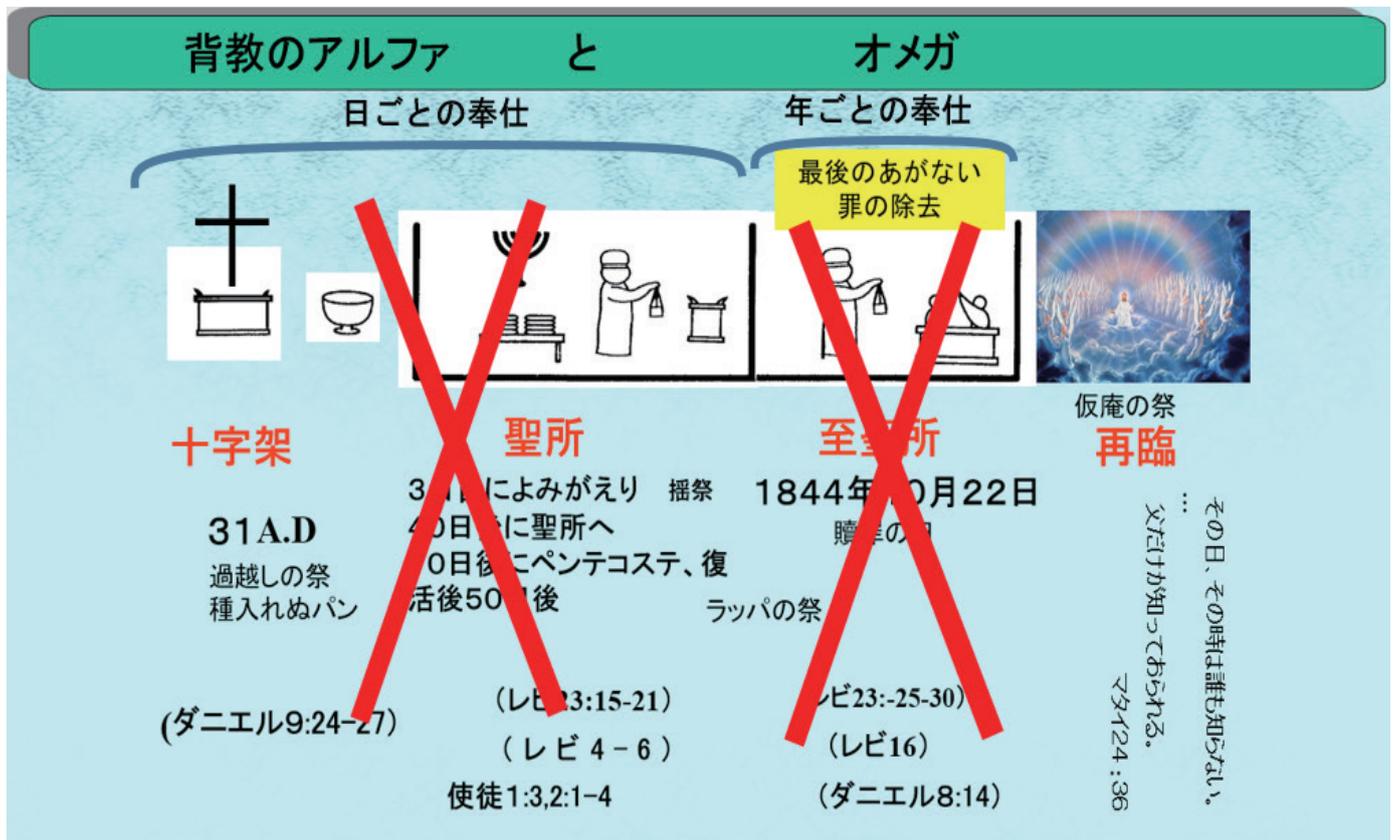
「これだけはほぼ確実である。オメガは必ずや**セブンスデー・アドベンチスト教会の基礎教理に攻撃を加える**。これまでの主な背教は、どれも次の三つの分野を崩しにかかった。**聖所、調査審判、そして証の書**。それもそうする事が教会の益であるという理由で、改革といった名目の下に」。

E・G・ホワイトは SDA 教会に大きな変化が来ると預言されました：

「わたしは我が民に告げるように命じられた：ある人達は悪魔が次々と策略を練って、彼らが思いもしない方法でそれらを遂行することに気がつかない。サタンの代理者は聖徒を罪人とする方法を案出するであろう。わたしは今言っておきたい。**わたしが死んでから、大きな変化が起こるであろう**。わたしはいつ召されるかはわからない。しかし、悪魔の策略に対してみんなに警告したい。わたしの死ぬ前に十分に警告したことを我が民に知ってほしい。わたしはどんな変化が起こるかは特に知らない。しかし、サタンが永久化しようとする罪のすべてに注意しているべきである」W・C・ホワイトによって送られた手紙, Elmshaven, 24, **1915**:「1888年再吟味(ウイーランドとショート)」に引用。

「魂の敵はセブンスデー・アドベンチストの間で**大改革が起こるべきであるという推測**を持ち込もうとしてきた。この改革は**我々の信仰の柱として立ってきた教理を放棄し、組織の再編成**に従事することで成り立つというものであった。このようなことが起こったなら、その結果はどうなることであろう？ 神の知恵によって残りの教会に与えられた**真理の原則が放棄される**であろう。**我々の宗教が変えられる**であろう。

過去50年間にわたり働きを支えてきた基本的原則が、誤りと見なされるであろう。**新しい組織**が確立されるようになる。**新しい種類の書物**が書かれるようになる。**主知主義(知識偏重)のシステム**が取り入れられるようになる。





このシステムの創設者が都市へ行き、目ざましい働きを

するであろう。もちろん安息日は軽視されるようになり、それをお造りになった神も同じく軽視されるであろう。新しい運動を阻止しようと立ちはだかるものは、何であつても許されないであろう。美德は悪徳にまざると指導者が説くが、神がとりのぞかれ、神なしでは何の価値もない人間の力に彼らは頼るようになるであろう。彼らの基礎は砂の上に立てられ、嵐が吹き荒れると、建物はひとたまりもなく倒壊するであろう」特別な証、シリーズ B、# 7、39～40 10-1903 年（セレクトッド・メッセージ 1 巻 204,205 ページ）。

「オメガ」ルイス・ワルトン著、68 頁より引用します。:

「“ α (アルファ)” “ Ω (オメガ)” 二つの文字が同じアルファベットから取られたことを示すように、当時の危機と明らかに似通った別の何か襲う。それ以上そのことについて神の僕は多くを語らなかつた。それはまるで現状の收拾で精一杯であつたときに、新たな嵐がすぐそばまで迫り、今にも飲み尽くそうとするかのような中から、未来への遺産として叫ばれたかのような謎めいた短い警告だつた。その中でホワイト夫人は、オメガがどのようなものかについての手がかりをいくつか遺しており、その警告が何かせきたてるような調子を帯びている事から、我々がそれらをつなぎ合わせ、分析するのは重要なことだと思われる」。

背教のオメガが何であるか真剣に研究している人たちがいて、私も研究中であります。ルイス・ワルトンと同じことは言えます。

聖所の日毎の奉仕は、クリスチャン経験の初歩を表しています。信仰による義認のステップを教えています。どのように新しい心を持つか、罪に勝利するかを教えています。これをクリスチャン経験のアルファとすることができるといふことができます。

年毎の奉仕ではあがないの終わりを教えています。そこで行われる仲保は最後のあがないと呼ばれました。魂の内に神の恵みの業を終える働きであり、人性と神性の結合を表す婚礼とも言えます。われわれは贖罪の計画をオメガと呼ぶことができます。それ故に、聖所は贖罪の計画のアルファとオメガ、初めと終わりを例証します。

チャールズ・スミス「婚姻に來れ」部分訳 68 頁より:

「エレン・G・ホワイトは、『生ける宮』は致命的な異端であるアルファを含んだ本だと言明した。もしケログの本が異端のアルファであり、聖所に例証されているあがないのアルファ、あるいは初めを攻撃したなら、背教のオメガは至聖所に例証されているあがない

いの終わりの部分を攻撃するということは当たり前の論理ではないだろうか？

“Omega Now= 現在のオメガ”の著者、デヴィッド・ミラーも同じ洞察をしています。

「この時に、ある人たちによって主張されている詭弁の結果を見破ることのできる人はわずかである。しかし、主がカーテンを引き上げてわたしにその行き着くところの結末を示された。神の個性に関する唯心論的説、つきつめていくと、キリスト教の制度をことごとく一掃してしまうことになる。それらはお自分の民のためにヨハネに与えようと天から来られたキリストの光をなきものに等しいと評価する。

我々の前に展開しようとする諸事件は特別に注意を払うべき程の重要なものでないと教える。天に起源を發する真理を無効にし、神の民から過去の経験を奪い、その代わりに科学を民に与える。...50 年間も働きを支えてきた基本的な原則は誤りであつたと見なされるであろう」(ISM203,204)。

ケログ医師の背教のアルファよりも、オメガは、預言者が言っているように実に巧妙にやってくるのです。背教のオメガに預言者は身震いしたと言われました。

つまり、背教のオメガとは、至聖所の「最後の贖い」を無効にすることです。サタンが最も憎んでいる大真理は何でしょうか？大争闘下 p 221-222 によると、キリストの大祭司としての最後の働きです。恩恵期間が終了して艱難の時を生きるためには、完全に罪が除去されていなければなりません。罪のない状態になっていなければなりません。大なる悩みの時=艱難の期間には、仲保者はいません。もし罪があれば、仲保者を必要とします。罪のない 144,000 - 完全に聖なる集団、死なないで生きて主を迎えるグループが造り出されなければ、キリストは再臨なされないのです。

この最後の贖いの祝福によって、永遠に罪が消し去られ、キリストのみ像を完全に反映するのです。

結論:

背教のオメガは、①最後の贖い、特別な贖い、特別な清めを無効にすること。②それは証の書を無効にすることにもつながります。なぜかという、証の書ははっきり、仲保者なくして生きる人々は、罪のない状態になっていると明言しているからです。

「罪なき完全な品性」という言葉は、私たち罪人にとって怖い言葉かもしれません。しかし、悔い改めと信仰をもってイエスのもとに来る時に、赦しは無償で

与えられる賜物です。

エレン・G・ホワイト：

「完全な罪のゆるしである。罪人が信仰によってキリストを受け入れた瞬間に、彼はゆるされる。キリストの義が彼に与えられ、彼はもはや神のゆるしの恵みを疑ってはならない」SB新331、ローマ書3:24-26の注解。

義認は、イエスを受け入れた瞬間に与えられます。聖化は義認の繰り返しです。完全はどうでしょう？

義認を保持し続けてきた人に最後の執り成しで瞬間に与えられる賜物であることが、下記の引用文で分かります。：

「キリストは、ご自分の民のために、完全で十分な許しと義認だけでなく、彼らが、ご自分の栄光にあずかり、ともにみ座につくことを求められるのである」大争闘下216。

罪の除去も、神の仕上げとして無償で与えられる賜物です。誤解しないでください。義認=ゆるしは罪から離れ、服従も含んでいることを。知っている罪から清められていることを。義認で始まり、義認で終わるのです。国と指導下193頁には、日ごとに清めを経験した者たちが、どれほど自分たちの不完全と罪深さと無価値を経験するかが、そして196頁には、彼らがなお「心の純潔を懇願」する時に、罪が除去され、二度と世の汚れに染まらないで、永遠に安全な者とされ、生ける神の印が押されるという順序が書かれています。

至聖所における最後の祝福が、信仰による義認の完

全で十分な成就なのです。(大争闘下216)。

さばきのメッセージは福音です!!!

●次頁のチャートを注意深く見てください。死んで主を迎える者も、生きて主を迎える者も同じ状態です。内なる人は同じです。まだ完全ではありません。裁きの時にすべての罪が除去されるのです。死んだ義人も生ける聖徒たちも復活の時に、外なる人は朽ちない永久の体に変えられるのです。生きている聖徒たちが裁きの前に完全になっていなければならないという考えは論理的ではありません。同じ条件です。

「またあなたがたが求める所の主は、たちまちその宮に来る。見よ、あなたがたの喜ぶ契約の使者が来ると、万軍の主が言われる。その来る日には、だれが耐え得よう。そのあらわれる時には、だれが立ち得よう」マラキ3:1,2。

「そこでイエスは答えて言われた、「人に惑わされないように気をつけなさい」マタイ24:4。

「しかし、民の間に、にせ預言者が起ったことがあるが、それと同じく、あなたがたの間にも、にせ教師が現れるであろう。彼らは、滅びに至らせる異端をひそかに持ち込み、自分たちをあがなって下さった主を否定して、すみやかな滅亡を自分の身に招いています」2ペテロ2:1。

「また、あらゆる不義の惑わしとを、滅ぶべき者どもに対して行うためである。彼らが滅びるのは、自分らの救となるべき真理に対する愛を受けいれなかった報いである」2テサ2:10。

ご自宅で聖書研究ができます
毎週の説教動画、セミナー等更新中。
無料書籍も閲覧可能です。
ぜひご利用ください！

サンライズミニストリー



www.sunriseministry.com

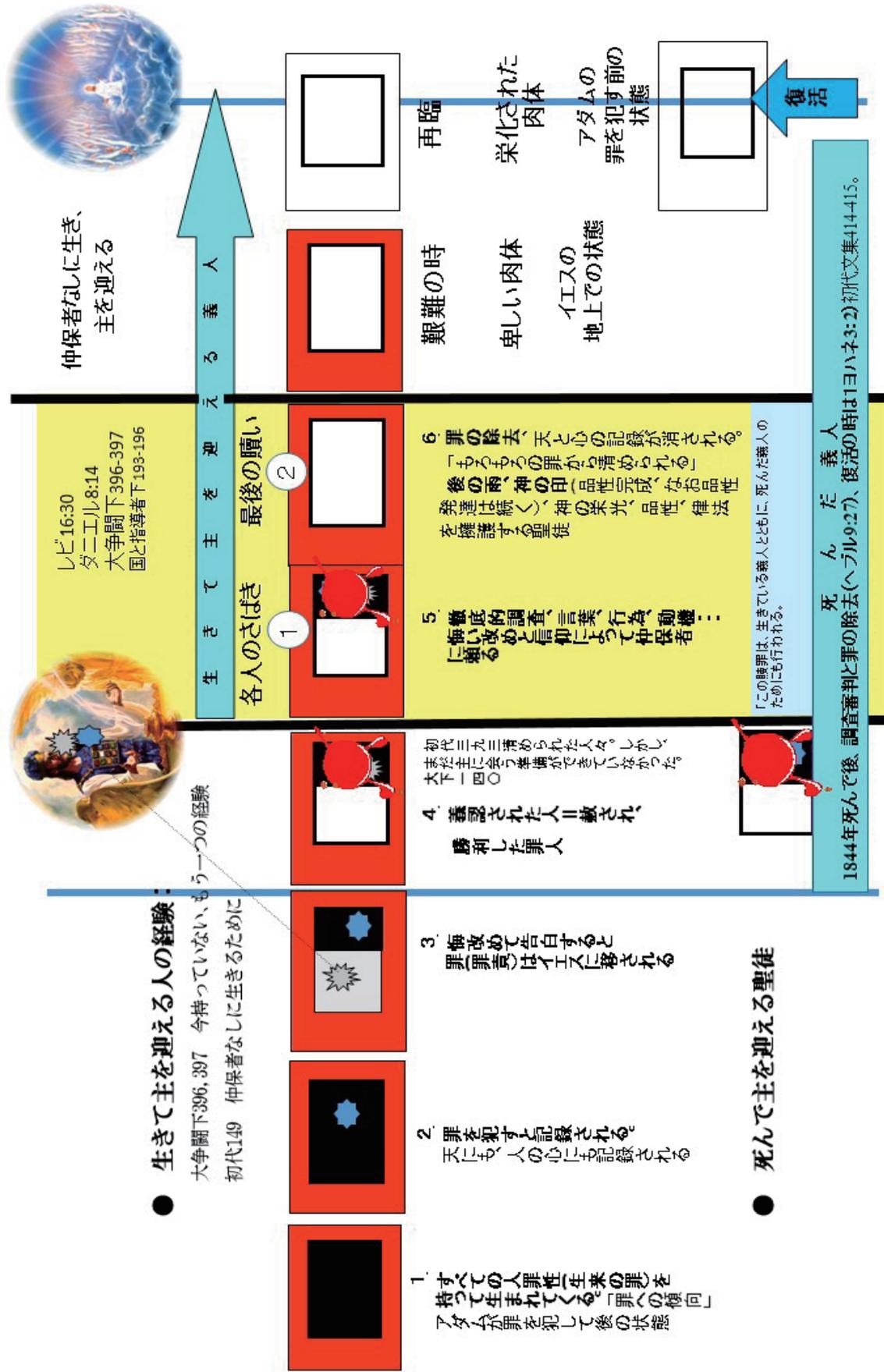


Sunrise Ministry | Youtube Channel

https://www.youtube.com/channel/UC_MrvUh7GCW2yGpWmYNSGxA



YouTube チャンネル



● 生きて主を迎える人の経験

● 死んで主を迎える聖徒

1. すべての人罪性(生来の罪)を持って生まれてくる「罪への傾向」アダムが罪を犯して後の状態

2. 罪を犯すと記録される。天にも、人の心にも記録される

3. 悔改めて告白すると罪(罪責)はイエスに移される

4. 義認された人(赦され、勝利した罪人)

5. 悔改めと信仰によって仲保者...に頼る

6. 罪の除去、天と心の記録が消される。「もろもろの罪から清められる」後の雨、神の印(品性完成、なお品性発達は続く)、神の栄光、品性律法を擁護する聖徒

1844年死んで後、調査審判と罪の除去(ヘブル9:27)、復活の時は1ヨハネ3:2)初代文集114-115。

仲保者なしに生き、主を迎える

生きて主を迎える 義人

再臨
 栄化された肉体
 アダムが罪を犯す前の状態

艱難の時
 卑しい肉体
 イエスの地上での状態

復活

「混乱から一致のために」 靈感の書からの引用

金城重博

1. 現代、群れが必要としているのは何か？ 混乱でなく、一致をもたらすのは何か？

「しかし、群れが今必要としているのは「現代の真理」である。わたしは、使者たちが、現代の真理の重要性を離れて、群れを一致させ魂を清めるのに何の役にも立たない問題を長々と話す危険を見た。」初代文集 137

2. 現代の真理とは何か？

「我々は大いなる最後のテストが近づいているので、この時代のための真理、第三天使の使命、大いなる叫び、すなわち、増し加わる力で宣べ伝えられなければならない。…この時代の現代の真理は、第一・第二に続く第三天使の使命から成っている。」Unpublished MS. (H.121-1900)

3. 第三天使の使命（第一、第二も含む）とは何か？

「最も重要なテーマは、第一天使と第二天使のメッセージを含んでいる第三天使の使命である。すべての者は、これらのメッセージに含まれている真理を理解し、それを日常生活にあらわさなければならない。なぜなら、これが救いに必要だからである。私たちは、これらの大真理を理解するために、熱心に、祈りの精神をもって研究しなければならない。そして、私たちの学び、理解する能力は、最大限に活用されることであろう（書簡 97,1902）。」伝道上 265, 266

4. 三重の使命、あるいは三天使は、すべての人々をどこに向けるか？

「イエスは、聖所における奉仕を終わり、至聖所に入って、神の律法を納めた箱の前に立たれた時に、世界に対する第三の使命をたずさえたもう一人の力強い天使を、お送りになった。天使の手には、羊皮紙が渡された。そして、彼は、力と威光とをもって地に下り、

これまで人類に伝えられたことのない、恐怖すべき威嚇をもった恐るべき警告を発した。このメッセージは、神の民の前にある試みと苦悩の時を彼らに示して、彼らに用心させるためのものであった。「彼らは、獣とその像と激しく戦わなければならない。彼らが永遠の生命を得る唯一の希望は、堅く立つことである。彼らは、その生命が危機にひんしても、真理に固く立たなければならない」と天使は言った。第三の天使は、「ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」（黙示録 14:12）と言って、メッセージを終わっている。彼は、この言葉を繰り返した時に、天の聖所を指さした。このメッセージを信じるすべての者の心は、至聖所に向けられる。イエスはそこで箱の前に立って、恵みがなお与えられているすべての人々と、知らずして神の戒めを破った人々のために最後の仲保をしておられるのである。この贖罪は、生きている義人とともに、死んだ義人のためにも行われる。これは、キリストを信じて死んだすべての人を含んでいるが、彼らは神の戒めに関する光を受けなかったために、知らずして戒めを破って罪を犯したのである。わたしは、第三の天使が、上の方を指さして、失望した人々に、天の聖所の至聖所への道を示しているのを見た。信仰によって彼らが至聖所に入る時に、彼らはイエスを見出して、新たな希望と喜びを味わうのである。わたしは、彼らが、過去を振りかえって、イエスの再臨の宣言から 1844 年における時の経過に至るまでの、彼らの経験を回顧しているのを見た。彼らは、彼らの失望が解き明かされて、ふたたび喜びと確信に活気づけられた。第三の天使は、過去と現在と未来を照らした。そして、彼らは、神が不思議な摂理によって、彼らを導いてこられたことを知るのであった。」初代文集 414, 415

5. なぜ、人々の心は至聖所に向けられなければならないのか？

A：イエス・キリストは、エルサレム、パレスチナにはおられない。天の聖所の第一の部屋にもおられない。天の至聖所におられるから（ヘブル 9:1-4, 7；黙 3:8；ダニ 7:9-13）

「2300日の終わりである1844年に起こると預言されたのは、この来臨のことであって、キリストが地上に再臨されることではなかった。われわれの大祭司は、天使たちを従えて、至聖所に入り、神のみ前で、人類のための彼の最後の務めをなさる。それは、調査審判の働きであり、贖罪の恵みにあずかる資格があることを示したすべての人のために贖いをなさることである。」大争闘下 211、FLB 2

B：喜びと希望と確信を見出せる。4番の引用文を見よ。

6. イエス・キリストは、至聖所で何をしておられるのか？

そのことを知ることは、クリスチャン生活に、救いに重要ですか？

「わたしは、第三の天使が、上の方を指さして、失望した人々に、天の聖所の至聖所への道を示しているのを見た。信仰によって彼らが至聖所に入る時に、彼らはイエスを見出して、新たな**希望と喜び**を味わうのである。…ふたたび喜びと確信に活気づけられた。」初代文集 414, 415

「聖所と調査審判の問題は、神の民にとってはつきりと理解されねばならない。すべての者は、自分たちの大いなる**大祭司キリストの立場と働き**について、自分で知っている必要がある。そうしなければ、この時代にあって必要な信仰を働かせることも、神が彼らのために計画しておられる立場を占めることもできなくなる。…**どんなにか重要**であろう。…何よりも重要である。」大争闘下 222

「最も重要なテーマは、第一天使と第二天使のメッセージを含んでいる第三天使の使命である。すべての者は、これらのメッセージに含まれている**真理を理解**し、それを**日常生活にあらわさなければならない**。なぜなら、**これが救いに必要だからである**。私たちは、これらの大真理を理解するために、熱心に、祈りの精神をもって研究しなければならない。そして、私たちの学び、理解する能力は、最大限に活用されることであろう(書簡 97,1902.)」伝道上 265, 266

7. 至聖所における大祭司の働きは何か？

A：調査審判と罪の除去「と」を除くことにより混乱が起こる。

「**調査審判と罪をぬぐい去る働き**は、主の再臨の前に完了しなければならない。死者は、書物に記録されたことによって裁かれるのであるから、彼らが調査されるその審判が終わるまでは、彼らの罪はぬぐい去ら

れることはできない。」大争闘下 218

「2300日の終わる1844年に、**調査と罪の除去の働き**が始まった。」大争闘下 219

8. 現代、セブンスデー・アドベンチストの中に混乱不一致がある。

「教会の清めの日は急速に近づいている。神は清い、真実な民をお持ちになるであろう。まもなく起こる大いなる震いにおいて、イスラエルの力が分かるであろう。様々なしるしは、主がみ手にうちわをもって、その打ち場(教会)を徹底的にお清めになる時が近づいている事を示している。大きな**混乱と困惑の時代が急速に近づいている。**」5T 80

※「我々の周りに**様々な教理の風が吹きまくって**くであろう。しかし、我々はそれによって動揺されるべきではない。神は義と真理の正しい標準を与えてくださった、すなわち律法とあかしである。」ST 4-1889

「我々は聖書についてほとんど知らないので、信仰に落ち着きがありません。彼らは古い標識を取り去り、**誤った考えや教えの風**によって、あちらこちらに流されています。」伝道下 16

9. 罪の除去・後の雨・神の印・144,000…いろいろあるが、とりあえず「罪の除去」の時—タイミングについてどんな混乱があるかを考えてみよう。:

- ① 罪の除去(罪が取り除かれる)のは、信じて義とされた時 毎日の経験
- ② 再臨の時
- ③ 恩恵期間終了の時
- ④ 恩恵期間終了前、キリストが至聖所におられる間

10. これらの考えは不明で混乱させられるものか？

「キリストのみ言葉によって弟子たちに将来が**はっきり**示されていたように、われわれにも将来のことが**預言の中にはっきり示されている**。恩恵期間の終わりに関係のあるできごとと、悩みの時のために備える働きとが、**はっきり示されている**。しかし多くの人々は、全然啓示を受けなかったかのように、これらの重要な真理を理解していない。サタンは、彼らに救いに至る

知恵を与えるような感化をことごとく奪い去ろうとうかがっているのです、彼らは悩みの時に備えができていない。」大争闘下 359

「**調査審判と罪をぬぐい去る働き**は、主の再臨の前に完了しなければならない。死者は、書物に記録されたことによって裁かれるのであるから、彼らが調査されるその審判が終わるまでは、彼らの罪はぬぐい去られることはできない。しかし、使徒ペテロは、**はつきり**と、信者の罪は、「主のみ前から**慰め**〔原文では **refreshing** (活気づけ、回復の意)〕の**時**が」(後の雨のこと)くるときに**ぬぐい去られる** (〔1888年版には**調査審判において**)とある)。そして、「キリストなるイエスを、神がつかわして下さる」と言っている (使徒行伝 3:19 参照。同 20 節)。調査審判が終わると、キリストは来られる。そして、たずさえて来た報いを、それぞれの人の行ないにしたがってお与えになるのである。」大争闘下 218

※ 神ははつきり示しておられる。はつきり理解できないのは我々の側の勝手な推測、先入観による。ベレヤの信者たちの「素直さ」が必要である。はつきり示されていないところは、孵化するまで待つことが必要である。

1 1. では、罪の除去の時はいつか？

- ① **調査審判**の時において。死んだ義人の裁きは 1844 年から始まって進行中。生ける者の裁きは近未来！

② 後の雨 (聖霊降下) の時

1 2. 裁きの時は、ある一定の期間である。

「裁きの時は最も**厳粛な期間** (period) であって、その時主は、独麦の間からご自身の麦を集められる」TM234(聖霊に導かれて上 294)「一人ひとり」裁かれる (4 T384)。

1 3. 裁きは「福音」である!!! 黙示録 14:6

「彼らの罪は、前もってさばかれて、消し去られている。彼らは罪を思い出すことができない」大争闘下 393。「汚れた衣が脱がされ、キリストの義の衣が着せられ、世の腐敗に二度と世の汚れに染まず、…**永遠に安全…生ける神の印**が押される」国と指導者下 196

「彼らは、いかなる**特定の罪も思い出すことはできない**が、生涯を振り返っても、良いものをほとんど見ることができない。彼らの罪は前もって裁かれ、赦しの文字が書かれていた。彼らの罪は忘却の彼方へと運び去られ、彼らは罪を思い出すことができなかった」96 B . 3 SG, 135.

1 4. では、生ける者の調査審判はいつから始まりいつ終わるか？

それはまた、別の研究とする。



贖罪のステップ

	日々の経験	調査審判	最後のあがない
<p>ダニエル8:14 レビ16:30 ダニエル7 大下134-7</p>	<p>①</p> <p>7:14,22,27 調査審判</p>	<p>②</p> <p>「聖所は清められる」 もろもろの罪から清める、あがない キリストと聖徒たちは主権と栄光と国を受ける 罪の除去</p>	<p>罪の除去</p>
<p>4T367 あ上420-423 大下215-7</p>	<p>犠牲の血は完全なあがないを果たさな かった。律法の宣告から全く解放された のではなかった。 日々の成長によっては完全に連じない。 罪は最後のあがないまで記録として残る。 罪を悔い改め、勝利</p>	<p>完全な贖い、を果たさがない。移された 罪</p> <p>心の深い探索</p>	<p>罪の除去</p> <p>罪の除去、以前の主権の回復、完全で十分な義認、キリストの栄光の教会、義 の衣を着せられる。新しい契約の完全な成就。神はもはやその罪を思わぬ、罪 を探してもない。</p> <p>罪は忘却の国へ再び思い出すことがない。</p> <p>婚姻 キリストのみ国を受ける</p> <p>婚姻</p> <p>人性と神性の結合の完成</p> <p>後の雨、罪の除去</p> <p>後の雨、品性を熟させる。魂に神の像を完成。</p> <p>後の雨、大いなる叫び</p> <p>生ける神の印、イエスのみ像を完全に反映</p> <p>汚れた衣を脱ぎ、輝かしい、新しい祭服を着る。もう決して汚されぬ、永遠に安 全、神の印。144,000</p>
<p>3SG135 マタイ22 マタイ25 実物287 使徒3:19 TM506 大下381-2 初代149 ゼカリヤ3 国指下193-196</p>	<p>礼服を着る</p> <p>人性と神性の結合</p> <p>必要な準備</p>	<p>調査審判</p> <p>罪深さ、欠陥を完全に認知、告白 サタンの告発 誰が立ち得よう？裁き 聖徒たちのための審判</p>	<p>永く清め、仲保者なしに祈り、賛美、礼拝をささぐ。 国と主権を受ける。 主に遣う準備ができる。</p>
<p>マラキ3:1-4 ダニエル7:22 大下140,141</p>	<p>まだ主に遣う準備ができていない。</p>	<p>罪深さ、欠陥を完全に認知、告白 サタンの告発 誰が立ち得よう？裁き 聖徒たちのための審判</p>	<p>永く清め、仲保者なしに祈り、賛美、礼拝をささぐ。 国と主権を受ける。 主に遣う準備ができる。</p>

大変化！初代440、大下381、黙18:1、マラキ3:4、エペソ5:27、
ガリ6:10、黙19:7,8





訂正とお詫び

アンカーの読者の皆様へ：

アンカー 64 号に対する反響をいくつも頂き心から感謝いたします。またいくつか誤字などの訂正箇所がありましたので心よりお詫びして訂正いたします。

頁、訂正箇所	誤字	正字
32 頁、左下から 10 行上	396.5 年	393.5 年
32 頁、右下から 4 行上	エホヤキンの統治	エホヤキムの統治
33 頁、右上から 8 行目	3437 年	3438 年

時の研究については 1840 年代同様、「その日、その時」は知らないと言って、必ず反論が出てくるでしょう。もちろん証の書を引用しつつ…。しかし、聖書の場合と同じように、証の書の文脈とその前後関係をよく見ないで、曲解して反論がなされることがあります。例えば、「**1844 年以降は時の預言はない**」という言葉。

最終時代の諸事件の 15 ページですが、英文では「**no time prophecy since 1844**」となっています。(ただ日本語の見出しでは「**特定の時**」となっています)。ところが証の書の他のどこの箇所を見ても「時の預言はない」という言葉はありません。つまりこれは見出しをつけた編集者(人)の言葉なのです。

また文脈を見るといつも、1844 年 10 月 22 日に関することで、何年何月何日という「**特定の時**」のことに言っているのです。

ジョセフ・ウォルフ(1840 年代の再臨説教者、ユダヤ人)：

「また『多くの者は、あちこちと探り調べ(時について観察し思考するというヘブルの表現)、そして知識(時に関する)が増すでしょう』(ダニエル書 12:4)とされている。さらに、主はこれによって、**時の接近がわからないというのではなくて、正確な『その日その時』が、あなたがたにはわからないからである**』と言われたのである」。

再臨の日時は、各時代の争闘の下巻にあるように、再臨直前に神ご自身が宣言されます。

いくつかご質問もいただいておりますが、アンカー 64 号の記事の聖書年代記のところは、プラントリー・グリーンロー氏の研究が最も単純だと思い、彼の記事から掲載したものです。

プラントリー・グリーンロー氏にエホヤキムの治世について質問しましたら、エホヤキムの四年(第 4 年)を 3.75 と計算しているようです。(エレミヤ書 25:1)。英語では“**in the 4th year**”となって 4 年目の後半-1 年を 3 か月ごとに区切り、0.25 年、0.25 年、0.25 年 = 3.75 年としているようです。ネブカデネザル王の最初のエルサレム包囲は「第 4 年」という意味は、第 4 年に入っている意。例えば、赤ちゃんが誕生した際、最初の 1 年目は生後 3 か月、6 か月などといいます。生まれて 1 年は経っていないので 1 才とは言いません。1 年過ぎると 1 才になったというように。

調べているうちに、ダニ 1:1 には「ユダの**王エホヤキムの治世の第三年**にバビロンの王ネブカデネザルはエルサレムにきて、これを攻め囲んだ」とある矛盾のように見える聖句に気づかされました。しかし、そこに矛盾がないことを 1941 年の SDA “The Ministry= 牧羊” 誌に、またインターネットにも説明がありました。ユダヤの年代計算とバビロンの年代計算の仕方によるものようです。そのことについては、皆様もお調べください。そのうち “The Ministry” 誌の記事も紹介できると思います。

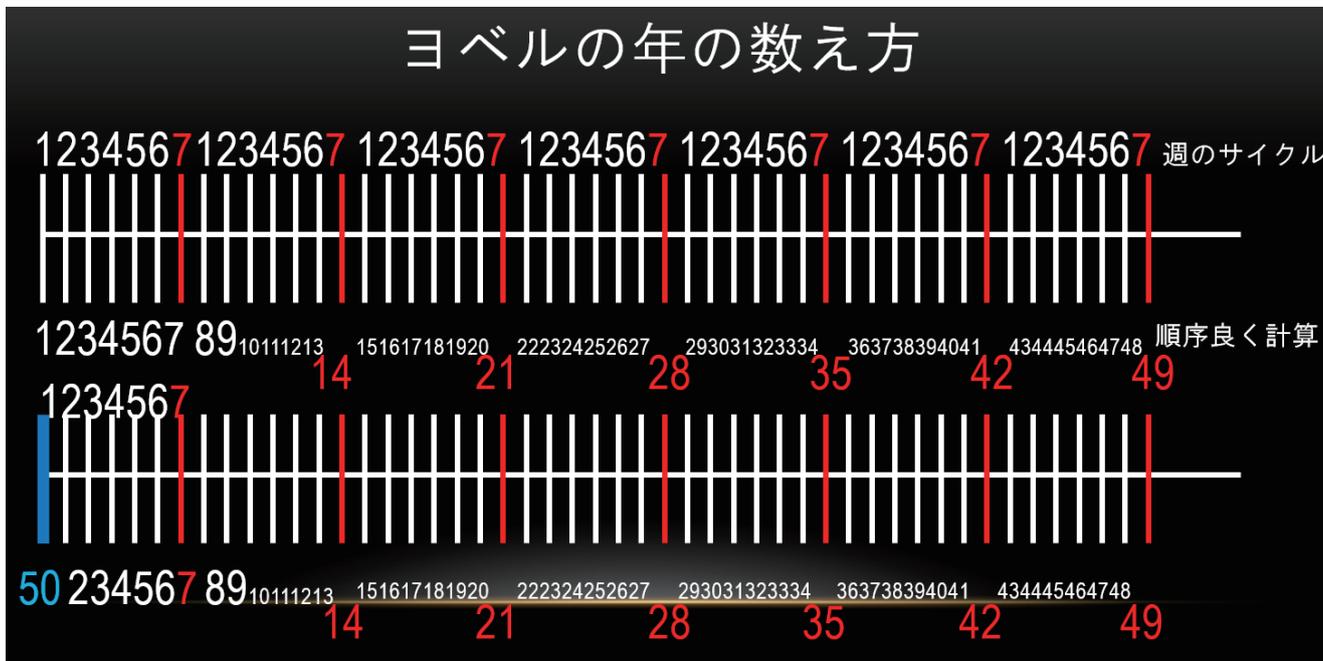
グレゴリー・ラング氏は、聖書年代記、イスラエルの列王の計算が少し複雑ですが、結論は、プラントリー・グリーンロー氏、Dr. ファイトと同じ、2027 年としています。デビッド・ゲーツ氏も同じ結論です(完全に同意できないところもあるのですが…)。「週年大時計」については、Dr. ファウラーのセミナーでも学びました。

いずれにしても、主の再臨は我々が思っている以上に非常に近いことに目覚めなければならないとのメッセージです。我々のメッセージは地上歴史 6 千年がメッセージではなく、三天使の使命ですと研究者は忠告しています。

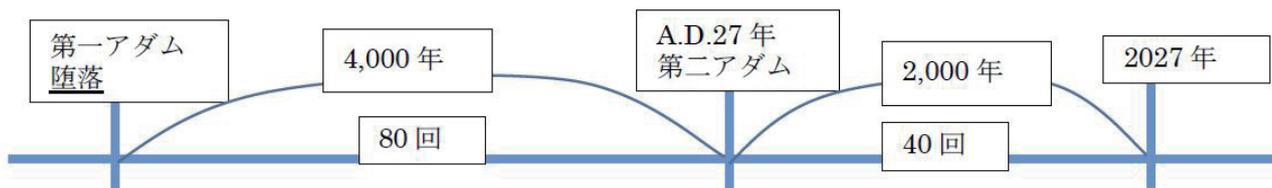
要は、彼らの研究は、キリストの再臨の日時を設定するのではなく、「非常に近い」とエレン .G. ホワイトが言っているように「**最後の出来事は急速に動く**」ということを示しています。地上歴史 6 千年の研究は、歴史のどこに我々は来ているかということに目覚めるよう、神の民、セブンスデーアドベンチストへ訴えているのです。

別のルートであるヨベルの年の研究からも地上歴史 6 千年の終わりは 2027 年となるようです。

ヨベルの年については、レビ記 25 章に書いてあります。7 × 7 = 49、そして 50 年目はヨベルの年です。



50 年目は、**新しく再出発**の意。ヨベルの年は、イスラエルがカナンを所有した時から守りはじめました。(週千年大時計によると、7 年で終わり、8 年目は新しい出発 - 週の第一日となり、8 千年目は新天新地を指すのです)。



A.D.27 年は、ルカ 4:18, 19によると、明らかにヨベルの年、イエスが福音 - を伝え始めた時。すなわち、罪人に自由、解放を与える「恵みの年」である。2000 ÷ 50 (ヨベルの年) = 40 回。

旧約の 80 回 + 新約の 40 回 = 120 回のヨベルの年。120 × 50 = 6,000 年。A.D.27 年から 40 回のヨベルの年 × 50 = 2,000 年。

ヨベルの年の研究からも地上歴史 6000 年は、**A.D.2027 年**となる。

皆様の上に更なる神様の導きと祝福がありますように。

金城重博



歴史と聖書の預言

各時代の大争闘 E・G・ホワイト

1冊で 950円/冊
 10冊以上で 850円/冊
 50冊以上で 650円/冊
 100冊以上で 500円/冊

商品番号:B20-4 A5サイズ

「各時代の大争闘」の再版で、カラーの写真、絵入りの、読みやすい新しいレイアウトです。現代の真理の書籍中、最も重要なこの本を至るところで秋の木の葉のように散らしましょう。あらゆる欺瞞の中にある現代人に正しい識別力を与え真の希望を与える必読の書。

讃美歌集&CD 契約の虹

讃美歌 160 選



商品番号:B70-1 A5サイズ、歌集 1,600 円
 :C70-1 CD8枚組 4,000 円
 :BC70-1 歌集&CDセット 5,000 円

日本基督教団讃美歌、聖歌、リバイバル聖歌、他から160曲を選びました。音程が高い調は低くして歌いやすくしています。全160曲を収録した音楽CDもあります。

まんが聖書大旅行

デビット・キム



史実にもとづく資料を取り入れた聖書物語まんが。12巻セット。オールカラープリント

11,760 円

商品番号:B42-28 A5サイズ、12巻セット

You Tube

チャンネル登録をいただくと最新の動画の通知が届きます。ぜひご利用ください。



サンライズミニストリーチャンネル
 礼拝説教の字幕動画や時事ニュース、セミナー、ドキュメンタリー動画など聖書に関連した動画を多数配信



サンライズ今帰仁教会安息日ライブチャンネル
 毎週土曜日午前10時より聖書研究と説教メッセージをYouTubeライブ放送中。



サンライズミニストリー讃美歌専門チャンネル
 讃美歌、その他音楽プログラムを配信中。



サンライズミニストリー子どもチャンネル
 子ども向けの聖書のお話しや子どもさんびか、動物の話などを配信中。



ショップがリニューアルしました!!



www.sunriseministry.shop